

2025 年度 実践記録集

与論町教育委員会

与論町における海洋教育の取り組み

はじめに

与論町は「島だちの教育」を理念として掲げ、「島発ち」「島建ち」「島立ち」の3点を包含するものとして大切にしています。

その理念は、島を出発するまでに島を知り、基礎的な知識・技能を身に付けること、島を建設・創造するための課題発見力や問題解決力を育み、どこの地でも自立できるための学びに向かう力・人間性を身に付けることを目指すものです。

「島だち後もたくましくしなやかに生きていける人に育ってほしい」そのために必要な姿勢やものの考え方を身につけさせる場として、海そのものの学びも踏まえつつ、海に囲まれたヨロン島の文化や島で生きる人々に目を向けながら学んでいこうということで始まったのが与論町での海洋教育「ゆんぬ学・ゆんぬ」です。

ゆんぬ学ウェブサイトより抜粋:「はじめに」

与論町の海洋教育について

・ 目標

海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ、与論島の海とくらしの課題について探究することを通して、「島だちの力」を身に付ける。

・ 内容

町内の全ての小・中・高等学校と地域住民が連携・協働しながら「与論島の海とくらしの課題についての探究活動」を展開することにより、与論島の子供たちに、自分の夢や目標に向かって力強く歩んでいくための「自己開示の力・自己表現の技術・レジリエンス・豊かな職業観や勤労観・探究的に学ぶ姿勢」等(=「島だちの力」)を身に付けさせる。

小・中学校においては、令和4年度から教育課程特例校として総合的な学習の時間等の時数の一部を削減し、減じた時数を海洋教育科「ゆんぬ学」に割り当てる。小・中学校の児童生徒は、総合的な学習の時間で身に付けた「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」や「学び方やものの考え方」を、海とともにある与論島の実社会で生かすことにより、それらの資質や能力等を海と人との共生や島だちに必要な力として強化していく。そして、それらの学びを高校で行われている総合的な探究の時間「ゆんぬ」につなぐことにより、すべての学校段階で海洋教育を具体的に推進していく。



与論町海洋教育実施スケジュール

令和 7 年度与論町海洋教育実施スケジュール

日時	事業名	場 所	備 考
4 月 4 日	与論中学校職員研修	与論中学校	学校コーディネーター・地域コーディネーター学校訪問
4 月 9 日	第 1 回 海洋教育推進協議会 役員会	与論町役場	
4 月 10 日	与論高等学校職員研修会	与論高等学校	学校コーディネーター・地域コーディネーター学校訪問
5 月 9 日	第 1 回 海洋教育部会	オンライン	
5 月 13 日	令和 7 年度 与論町海洋教育推進協議会 総会	与論町役場	
6/14～6/15	鹿児島大学の大型練習船「かごしま丸」寄港	茶花港	船内ツアー：一般向け 鹿児島大学水産学部特別進路相談会：高校 3 年生対象
6 月 18 日	第 3 回 海洋教育魅力化セミナー	与論町役場	
7 月 24 日	教職員等「ゆんぬ学」研修① 『与論のゆたかな海からゆんぬ学への活動へ繋げよう』	B&G 艇庫	※天候不良のため中止
7 月 30 日	サイエンスキャンプ成果発表会	与論町役場	東京大学大気海洋研究所・与論高等学校・与論町海洋教育推進協議会合同企画
8/1～8/4	価値創造ゼミ夏季合宿	鹿児島大学	与論高校生 6 名参加 鹿児島大学南九州南西諸島域イノベーションセンター(PARKS 事業)、与論町海洋教育推進協議会の共同企画
8/4～8/7	教職員等「ゆんぬ学」島外研修 (3 泊 4 日) ゆんぬ学研修 in あまみ		奄美大島で実施
8 月 29 日	教職員等「ゆんぬ学」研修② 『和太鼓で与論の芸能・文化に触れよう』	与論小学校	
9 月 9 日	第 2 回 海洋教育部会	オンライン	
9/28・29	九州大学×ゆんぬ学特別講座 「水素エネルギーって何？」	与論町役場 那間小学校	28 日：一般向け講座 29 日：小学生向け講座
11 月 8 日	2025 年度医科学研究所・大気海洋研究所合同奄美シンポジウム	奄美市	サイエンスキャンプ生参加 与論高校大倉校長講演
11 月 26 日	第 2 回 海洋教育推進協議会 役員会	与論町役場	
11 月 27 日	第 3 回 海洋教育部会	オンライン	
1 月 27 日	第 6 回 ヨロン海洋教育フェア	サビチラ館	
2 月 15 日	PARKS アントレプレナーシップ 教育プログラム MEETUP2025 活動 発表会	九州大学	与論高校生（価値創造ゼミ生）参加

I. 継続的な海洋教育の実施体制整備

- 中学校・高等学校の年間授業計画について、海洋教育担当教諭と地域コーディネーターが協働して調整し、地域協働型授業を含むフレームを作成した。
- 地域サポーターとの連携強化に向けては、継続的な授業への参加依頼、セミナーの実施、子どもたちの活動共有などの取り組みを体系化し、持続的に連携できる環境を整備した。
- 海洋教育 Web サイトは、生徒・教員・地域からの意見をもとに内容を見直し、授業での活用が進む実用的な教材として改訂した。
さらに、副読本および Web サイトを活用した研修を継続し、新規着任教員を中心として教員の方々が与論町海洋教育「ゆんぬ学」の目的・内容・組織体制への理解や共通認識を持てる基盤を整えた。
- 与論町海洋教育推進協議会、役員会、海洋教育部会、地域サポーター会、学校職員、保護者を含む地域の方々を対象とした「第3回海洋教育魅力化セミナー」を実施した。

II. 学校間の連携推進

1. 中高連携による一貫した学びの構築

- 中学校・高等学校の年間授業計画について、海洋教育担当教諭と地域コーディネーターが協働して調整し、地域協働型授業を含む学びのフレームを作成した。また、中高それぞれの地域コーディネーターが連携することで、「ゆんぬ学」の学びが段階的につながるよう工夫した。中学生の意欲向上にもつながることを期待し、高校の発表会に中学生が参加できる機会を設け、将来の学びの姿を具体的にイメージできるようにしている。

2. 小学校の特色を生かした授業の充実

- 学校教諭を中心に、小学校担当学校コーディネーターのサポートによる各校の特色を活かした授業を計画、実施した。
- 中・高等学校でのゆんぬ学へ自然につながる学びの基盤づくりにも役立つことを期待し、地域人材や島外講師を活用した授業を実施した。小学生が地域を知り、興味・関心を育てる学びを重視した。

3. 協議会・部会の開催による連携強化

- 海洋教育推進協議会、役員会、海洋教育部会を継続して開催し、学校・行政・地域の連携体制が安定的に維持された。また、協議会会長、副会長、事務局、学校コーディネーター、地域コーディネーターによる定例会を毎月実施し、各学校の活動内容を中心に、ゆんぬ学の継続・推進が迅速に実施されるための情報共有を行なった。
- 小・中・高等学校の担当教諭、指導主事を中心として、年に3回海洋教育部会を実施した。

III. 参加校の合同発表会の開催

- 令和 8 年 1 月 27 日に、島内 5 校が参加する「第 6 回ヨロン海洋教育フェア」を開催した。
1 年間の学びを児童・生徒が発表し、展示スペースでは発表者以外の活動成果も共有された。各学校の発表後には学校種を交えたグループでの意見交換や、発表グループへのフィードバックが実施された。
地域住民への広報も強化したことで、学校と地域が海洋教育の成果を共有し合う場として大きな役割を果たしている。

IV. 教職員向け研修の実施

- 新たに与論町に来られた教員もスムーズに海洋教育に携われるよう、与論中学校（4 月 4 日）、与論高等学校（4 月 10 日）にて職員研修会を実施した。
- 「ゆんぬ学研修」：「地域の海を知る」「地域の文化を知る」ことを目的にした島内研修（8 月 29 日）、指導者が合同で研修に参加し、学校間の交流を深めたり、他地域の活動を知ること、今後の与論町海洋教育の継続・発展に繋げるための島外研修（8 月 4 日～7 日）を実施した。

V. 副読本の活用

- 教員対象の研修会において、副読本を活用し、与論町海洋教育の目的・実施内容・組織等、概要について、理解を深めている。また与論町教育委員会 WEB サイト（<https://www.yoron.jp/kyouiku/list00506.html>）において、副読本を閲覧できるよう掲載している。

努力項目

(2) 外部や地域との連携

与論高校ゆんぬ学での活動

【価値創造ゼミ】

目的：与論町が抱える地域課題を題材に、生徒が主体的に課題を探究し、協働的な活動を通じて解決策を構想・実践・発信するプロジェクト型探究活動。多様な地域関係者との連携や、デジタル技術の活用などを取り入れながら、生徒の創造的思考力・課題解決力・社会参画意識の育成をめざします。これにより、地域に新たな価値を創出できる次世代の人材を育成することを目的としています。

主催：共同実施

鹿児島大学南九州・南西諸島域イノベーションセンター

※PARKS が推進する「EDGE-PRIME INITIATIVE」の一環として実施 PARKS

(Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem)

鹿児島県立与論高等学校，与論町海洋教育推進協議会，

参加者：与論高等学校 1 学年 6 名

活動：「創無活有：無いものを創り、有るものをもっと活用する」を大きなテーマとし、詳細はチームで探究テーマを設定し活動する。

・月 1 回程度の実施（ゆんぬ学授業にて実施）、必要に応じてフィールドワークの実施

・鹿児島大学にて実習 2025 年 7 月 31 日（木）～8 月 4 日（月）

・2026 年 2 月 MEET UP2025（PARKS 主催） 活動発表会@福岡市への参加・発表



【「海と希望の学校 in 奄美」夏季集中柏サイエンスキャンプ成果発表会】

目的：与論高校および大島高校が夏季集中柏サイエンスキャンプにおいて水分析をテーマに実習を行い、与論島および奄美大島で採取した水を用いた分析作業を通して、大学における先端的科学研究に触れるとともに、自らの生活環境への理解を深めることを目的とする。あわせて、大学院生および教員との協働・交流の機会を設け、生徒の科学的探究心の醸成を図る。

主催：東京大学大気海洋研究所

参加者：与論高等学校2学年6名

日時：・夏季集中柏サイエンスキャンプ：令和7年7月27日～31日

・成果発表会：令和7年7月30日（与論町役場にてオンライン視聴会場開設）

発表テーマ：「焼酎粕の堆肥化による赤土流出の防止」

「砂浜に打ち上がった海藻の堆肥化による 赤土流出の防止」

「不純物の入った貯水タンクの水や、鍾乳洞の水で植物は育つのか」

「赤崎鍾乳洞の水は植物を育てるのに使えるのか」

「与論と東京の水道水の成分比較と水道水の軟水化について」

「災害時の断水時に生活用水を確保する方法」



その他の活動

【鹿児島大学練習船「かごしま丸」寄港記念 船内ツアー】

目的：鹿児島大学の練習船「かごしま丸」の寄港を記念し、一般の方々に船内を公開することで、海洋教育への関心を高める。船内ツアーや関連イベントを通じて、「船乗りの仕事」や「水産学」の魅力を伝え、未来を担う人材の育成に貢献する。与論島の海洋教育の推進を図る。

主催：与論町海洋教育推進協議会

協力：鹿児島大学水産学部

特別企画①

日時：令和7年6月14日 午前、午後

内容：船内ツアー、遠洋航海、海に関する質問タイムなど

参加者：未就学児、小学生、保護者、地域の方など合計149名が参加

特別企画②

日時：6月15日(日) 10:00-11:30

内容：鹿児島大学水産学部進路相談会（船長、教授2名）

参加者：与論高等学校3年生4名



【九州大学✕ ゆんぬ学特別講座】

目的：地球温暖化の解決策として注目される水素エネルギーについて、島民にわかりやすく紹介する。また、小学生向けには実験授業を実施し、島民が持続可能なエネルギーや環境問題に主体的に関心を持つきっかけとする。

共催：九州大学 水素エネルギー国際研究センター，与論町海洋教育推進協議会

特別講座①「水素エネルギーってなに？～地球温暖化を食い止める鍵を探る～」

講師：西原 正通 先生（九州大学 水素エネルギー国際研究センター 教授）

日時：令和7年9月28日（日）16:00～17:30

会場：与論町役場1階 多目的ルーム

対象：保護者・中学生・高校生（19名参加）



特別授業②「水素エネルギー実験授業」

講師：西原 正通 先生（九州大学 水素エネルギー国際研究センター 教授）

日時：令和7年9月29日

会場：那間小学校教室

対象：那間小学校6年生

【奄美野生生物保護センター 出前授業】

目的：与論島では見ることができない動物の剥製に触れることで、野生生物の環境を考えるきっかけとする。

主催：奄美野生生物保護センター・与論町海洋教育推進協議会

①日時：令和8年2月18日 15:30-17:00

場所：保健センター1Fホール

対象：一般・こども園

②日：令和8年2月19日

場所：那間小学校 対象：那間小学校1・2年生

場所：茶花小学校 対象：茶花小学校特別支援教室1-5年生



【令和7年度拾い箱改修プロジェクト】

活動内容：拾い箱の改修

※拾い箱とはビーチクリーンなどで拾ったごみを捨てられる箱のことです。拾い箱を設置して誰でもいつでも気軽にごみ拾いができる仕組みです。「拾い箱」の設置は与論島から全国各地に広がっている取り組みです。

1. 目 的：生徒たちが地域課題に触れ、学校での探究活動をより実践的で具体的なものにすること。
2. 主 催：与論町海洋教育推進協議会
3. 協 力：一般社団法人 E-Yoron
4. 実施期間：2026年1月25日&3月1日
5. 実施場所：ウドノスビーチ&茶花海岸
6. 参加人数：11名
7. 活動内容：アップサイクル材を活用した拾い箱の改修作業
8. 活動の様子



地域サポーターによる授業案の作成やその実施

【ゆんぬ学 HP サポーターリスト】

<https://yunnu-kyouiku.jp/about/supporter/>

一般ページ



指導者（教員）向けページ（閲覧制限付き）

※地域サポーターが実施する授業内容や連絡先など閲覧が可能



(6) 全国に向けた海洋教育の取り組みに関する情報発信

【与論町教育委員会 HP・海洋教育ページ】

各学校の授業情報、与論町海洋教育に関する情報の発信

https://www.yoron.jp/kyouiku/ki_ji0037869/index.html

与論の海洋教育とは

 令和6年度与論町海洋教育グランドデザイン（PDF：499.9KB） 

 2024_実践記録集_与論町教育委員会（PDF：11.11MB） 

 海洋教育魅力セミナープレゼン資料（PDF：2.13MB） 

 先生・地域向け副読本「みんなで学ぶヨロンの海洋教育」（PDF：15.78MB） 

 町民向け広報文「新しい教科，海洋教育科『ゆんぬ学』について」（PDF：1.21MB） 

★ 各校の海洋教育科の教育課程は、それぞれの学校のページに掲載されています。

・与論小学校  ・茶花小学校  ・那間小学校  ・与論中学校 

各学校での実践例（令和6年度）

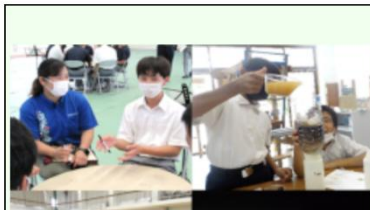
 与論小学校での海洋教育（PDF：349.2KB） 

 茶花小学校での海洋教育（PDF：483.9KB） 

 那間小学校での海洋教育（PDF：644.7KB） 

 与論中学校での海洋教育（PDF：576.5KB） 

 与論高等学校での海洋教育（PDF：535.1KB） 



先生方や保護者の皆様、地域の方々は、
海洋教育を評価しながら、よりよい学びを追求しています。
海洋教育の評価の一部をご紹介します。

【与論町海洋教育推進協議会・ゆんぬ学 Web サイト】

<https://yunnu-kyouiku.jp/>

各学校で実施した授業内容、これから実施する企画・イベントなどの情報発信

与論町海洋教育

- トップ
- ゆんぬ学を知る
- ゆんぬ学で学ぶ
- 活動報告
- イベント情報
- 地域・大学コラボ企画
- 与論の情報・その他
- 見学・インタビュー

協賛者向けコンテンツ

みんなで学ぶヨロンの海洋教育「ゆんぬ学」・「ゆんぬ」
島民の力を身に付けよう

What's New

新着情報

- 2026年2月20日 地域・大学コラボ企画 鹿児島大学学生による熱い講演会 わんきゃとあまみ
- 2026年2月20日 地域・大学コラボ企画 価値創造ゼミ生 MEET UP 2026で発表！
- 2026年2月19日 活動報告 与論中学校2年生「ゆんぬ学・ミニレポート発表会②」
- 2026年2月17日 活動報告 第6回ヨロン海洋教育フェアを開催
- 2026年2月16日 イベント情報 アマミノクロウサギなどはく製がヨロンにやってくる！

Event

イベント情報

参加・応募できるイベントをチェックしよう。

2026年2月16日
アマミノクロウサギなどはく製がヨロンにやってくる！
保護者 一般
小学生 中学生 高校生 その他

2025年10月8日
【一般公開プログラム】女子中高生の理系進路を応援するオンラインイベント「未来をぞこよう！」
高校生

2025年9月22日
九州大学教授と未来を語る！特別進路セミナー開催
高校生

2025年9月22日
九州大学×ゆんぬ学 地域向け特別講座「水素エネルギーってなに？」
保護者 一般
中学生 高校生 その他

8月31日 14:00-17:00
建築体験ワークショップ「未来を「建てる」きっかけに〜」
中学生 高校生

Activity

活動報告

与論町海洋教育「ゆんぬ学」での活動をチェックしよう。

2026年2月19日
与論中学校2年生「ゆんぬ学・ミニレポート発表会②」

2026年2月17日
第6回ヨロン海洋教育フェアを開催

2026年2月4日
与論中学校1年生ゆんぬ学「課題解決カードゲーム」・制作編

2026年1月20日
与論中学校2年生「ゆんぬ学・ミニレポート発表会」

2025年12月12日
3小学校ゆんぬ学「ヨロンの海を学ぶ」授業

Co-creation

地域・大学コラボ企画

地域・大学などとコラボして開催した企画をチェックしよう。

2026年2月20日
鹿児島大学学生による講演会

2026年2月20日
価値創造ゼミ生 MEET UP 2026

2025年12月26日
鹿児島大学学生による講演会

2025年9月30日
九州大学×ゆんぬ学 地域向け特別講座

2025年9月30日
建築体験ワークショップ

【ゆんぬ学ニュースレター：地域サポーターさん向けに発行】



ゆんぬ学
小島町海洋教育

地域サポーターさんへの活動報告
2025年度版
発行：与論町海洋教育推進協議会

ゆんぬ学とは

「島だち後もたくましくしなやかに生きていける人に育ってほしい」

与論町は「島だちの教育」を理念として掲げ、「島発ち」「島建ち」「島立ち」の3点を包含するものとして大切にしています。その理念は、島を発見するまでに島を知り、基礎的な知識・技能を身に付けること、島を建設・創造するための課題発見力や問題解決力を育み、どこでも自立できるための学びに向かう力・人間性を身に付けることを目指すものです。

「島だち後もたくましくしなやかに生きていける人に育ってほしい」

そのために必要な姿勢やものの考え方を身につけさせる場として、海そのものの学びも踏まえつつ、海に囲まれたヨロン島の文化や島で生きる人々に目を向けながら学んでいこうということから始まったのが与論町の海洋教育「ゆんぬ学・ゆんぬ」です。

レポート 令和7年度：各学校での取り組み

ゆんぬ学レポート



「ゆんぬ学」において、地域サポーターさんのご協力をいただき実施しています。

3小学校合同



海ごみ拾い
3小学校合同の集団学習の中で、海謝美さんと海ごみについて学びました。

与論中学校3年生



大学生との交流会
今年で2回目。与論島出身者を含む6組の大学生とオンラインで交流しました。

与論高等学校



ワールドカフェ
探究シンポジウムの目玉イベントとして、21名の地域サポーターさんにご協力いただきました。

NEW 地域・大学コラボプロジェクト

地域・大学
コラボプロジェクト



与論高等学校「価値創造ゼミ」スタート！

与論高校の総合的な探究の時間「ゆんぬ」において、地域の未来を担う次世代の人材育成を目指し、鹿児島大学南九州南西諸島域イノベーションセンター、与論町海洋教育推進協議会と協働して、令和7年度より希望する1年生を対象に「価値創造ゼミ」を新たに開始しました。

鹿児島大学南九州南西諸島域イノベーションセンター、PARKSが推進する「EDGE-PRIME INITIATIVE」の一環として実施



トピック 地域サポーターってどんな役割??

子どもたちの「なぜ？」に応える、島の先生

ゆんぬ学に取り組む子どもたちは、与論島の歴史、文化、自然、社会課題など、さまざまなテーマを探究しています。地域サポーターの皆さまは、その探究を支える大切な存在です。子どもたちが「もっと知りたい!」「どうすればいいの?」と壁にぶつかったときこそ、サポーターさんの出番です。子どもたちの学びをより深く、魅力的なものにしていきたいです。専門的な知識の提供にとどまらず、フィールドワークのサポートや「地域の大人」と交流する機会に参加いただくことで、子どもたちは実際の生きた声に触れることができます。また、子どもたちのユニークなアイデアに触れることは、サポーターの皆さまにとっても島の課題や魅力を再認識するきっかけとなり、未来を担う子どもたちと共に社会課題に取り組むことのできる貴重な機会にもなっていると考えています。





ご案内 「ゆんぬ学」webサイト

地域と子どもたちをつなぐ学びのプラットフォーム

「ゆんぬ学」webサイトは、探究に役立つ情報や「ゆんぬ学」での取り組みを発信しています。本サイトを活用していただき、

- ・児童・生徒が探究学習を深めること
- ・先生方、地域サポーターの皆様の授業企画や探究学習の支援に繋がること
- ・与論町海洋教育「ゆんぬ学」の活動を、地域住民や島外の方々にも知っていただくこと

を目的として、与論町海洋教育推進委員会が運営・管理しています。本ウェブサイトでは、日頃から「ゆんぬ学」にご協力いただいております、地域サポーターの皆様のご紹介もさせていただきます。



地域サポーターさん紹介

児童・生徒、また学校の先生方の探究のサポート「島の先生」として活躍してくださっています。

※3月に最新版に更新しました。

ご登録がまだお済みでない地域サポーターさんは、ぜひご登録をお願いいたします。




自治体の年間活動実績

発表会・研修の報告

① 第6回ヨロン海洋教育フェア

- 1 目的 (1) 町内の小・中・高等学校が海洋教育の学習成果を共有することで、児童生徒の個々の学びを深める機会とする。
(2) 与論の海、海に守られた伝統・文化、海と共に生きる人々の姿について児童生徒と地域の大人が学び合うことで、海洋教育の地域展開を推進する。

2 主催 与論町海洋教育推進協議会 与論町教育委員会

3 日時 令和8年1月27日(火)13:40~15:45

4 会場 砂美地来館 アリーナ

5 参加者 与論小学校4年生 20人、与論中学校2年生 55人
茶花小学校6年生 24人、与論高等学校1、2年生 85人
那間小学校5年生 14人
その他、来賓、引率教員、海洋教育地域サポーター、保護者及び一般町民、他

6 内容 13:40 ~ 13:47 (7) 開会式

- ・ 開会のあいさつ (教育長)
- ・ フェアの流れの説明

13:47 ~ 13:57 (10) 与論小4年生の発表 「与論の文化を受けつぎ隊」

13:57 ~ 14:05 (8) 共有タイム (小グループ→全体)

14:05 ~ 14:15 (10) 那間小5年生の発表

「与論の海を守る!!わたしたちのアイディアと実践」

14:15 ~ 14:23 (8) 共有タイム (小グループ→全体)

14:23 ~ 14:33 (10) 茶花小6年生の発表 「与論の音楽、好きすぎて奏！」

14:33 ~ 14:41 (8) 共有タイム (小グループ→全体)

14:41 ~ 14:49 (8) 休憩

14:49 ~ 14:59 (10) 与論中2年生代表生徒の発表

「高齢者の寿命を延ばすには」

「サトウキビの生産量を維持するためには」

14:59 ~ 15:07 (8) 共有タイム (小グループ→全体)

15:07 ~ 15:32 (25) 与論高校2年生代表生徒の発表

「サイエンスキャンプ成果報告」

与論高校1年生代表生徒の発表

1年「価値創造ゼミ成果報告」

1年「食べられる草・花」

15:32 ~ 15:40 (8) 共有タイム (小グループ→全体)

15:40 ~ 15:45 (5) 閉会式

- ・ 講評 (鹿児島大学南九州・南西諸島域イノベーションセンター長 藤枝 繁)
- ・ 閉会のあいさつ (海洋教育推進協議会会長)



※与論高校と奈留高校が、対面交流を与論高校卒業生が企画した、5泊6日で奈留高校が与論島に来島、フェアにも参加した。

② 与論町教育研究会「海洋教育部会」

実施状況：3回（オンライン会議）

参加者

部長	那間小学校	教	諭
部員	与論小学校	教	諭
〃	茶花小学校	教	諭
〃	与論中学校	教	諭
〃	与論高等学校	教	諭
	与論町教委	指導主事	
事務局	〃	地域おこし協力隊	

目 的：町内全ての学校の海洋教育担当者による協議をととして、与論町が推進する海洋教育の展開の在り方について検討する。

内 容：

〔第1回 令和7年5月9日〕

- ・ 海洋教育科『ゆんぬ学』について

〔第2回 令和7年9月9日〕

- ・ 「第6回海洋教育フェア」について

〔第3回 令和7年11月27日〕

- ・ 「第6回海洋教育フェア」について
- ・ 令和8年度 各学校予算(案)について
- ・ 令和8年度 協議会予算(案)について

③ 与論町教職員等夏季研修会

- ・「ゆんぬ学」研修①『与論のゆたかな海からゆんぬ学への活動へ繋げよう』

日 時：7月 24日実施予定（天候不良のため中止）

目 的：体験を通して、生き物の観察や海の中の状況など与論の海のゆたかさを体感し、今後の『ゆんぬ学』の活動へつなげる。

主 催：与論町海洋教育推進協議会、与論町教育委員会

協 力：NPO 法人ヨロン SC / Muuru

- ・「ゆんぬ学」研修②『和太鼓で与論の芸能・文化に触れよう』

日 時：8月 29日実施（天候不良のため日程を変更して実施）

参加者：計 8名

目 的：体験を通して、与論の芸能・文化・島の心に触れ、各学校で行われている「ゆんぬ学」の充実に生かす。

主 催：与論町海洋教育推進協議会、与論町教育委員会

協 力：与論町役場健康長寿課地域包括センター 川上明日香さん



④ ゆんぬ学研修 in あまみ

目 的：・与論町海洋教育に関わる小・中学校・高校職員、協議会が合同で与論町海洋教育や学校教育への理解を深める。

・新しい授業、これまでの授業内容の発展など児童・生徒の探究学習を深めることにつながる授業の企画、また他地域の協力者と繋がる。

・今後、児童・生徒が探究成果の発表などで島外と交流できる機会を企画する。

主 催：与論町教育委員会、与論町海洋教育推進協議会

期 日：8月4日（月）～ 8月7日（木）

場 所：鹿児島県奄美市（奄美大島）

参加者：計 5名

内 容：

【奄美パーク・田中一村記念美術館】

奄美の歴史・文化・自然を総合的に学べる「奄美パーク」を見学し、島の成り立ちや暮らしの変遷を学び、地域理解の視野を広げた。併設の「田中一村記念美術館」では、奄美の動植物を細密に描いた作品を鑑賞し、生涯や制作背景に関する映像も視聴することで、作品への理解を深めた。

【大島紬の泥染め体験】

大島紬村にて、奄美を代表する伝統工芸「大島紬」の泥染めを体験した。併せて製造工場を見学し、工程を順に学び、熟練職人から技法や歴史について話を伺うことで、文化継承の意義を実感した。

【金久中学校との意見交換会】

参加者：金久中学校：校長、教頭、教諭2名 計4名

与論側：学校教諭、協議会メンバー5名

プログラム：

1. 金久中学校の取り組み紹介（30分）

担当：金久中学校校長

・地域資源を活かした総合学習・探究学習の実施状況

・探究学習の授業計画書、年間計画、校内体制、外部連携、成果と課題など

2. 「ヨロン海洋教育フェア」ダイジェスト視聴（10分）

3. 与論の各校（小・中・高）の取り組み紹介（20分）

4. 意見交換会（40分）

5. 全体共有と振り返り（10分）

・全体での振り返り共有

【奄美野生生物保護センター】

絶滅危惧種アマミノクロウサギや固有種の保護活動について、展示や講話を通して学んだ。生物多様性や環境保護の重要性を学んだ。今後は町内学校での出前授業の実施について企画を進める予定である。

【アマミノクロウサギミュージアム QuruGuru】

案内を受けながら展示を見学し、負傷個体の治療・リハビリ・野生復帰に向けた設備を確認した。子どもたちが楽しみながら野生生物保護を学べる工夫も多く、教育的に有意義な施設であった。

【黒潮の森マングローブパーク】

マングローブ原生林を訪れ、オヒルギ・メヒルギや、そこで暮らす甲殻類・魚類などの生態を観察した。カヌーでしか進めない水路を体験し、自然の迫力と保全の重要性を体感した。



⑤ 与論中学校・与論高等学校職員研修

目 的：与論町海洋教育の目的、これまでの活動内容を知り、海洋教育科「ゆんぬ学」の継続、発展へ繋げる。

【与論中学校】

日 時：令和7年4月4日(金) 11:15～11:40

場 所：与論中学校

【与論高等学校】

日 時：令和7年4月10日(木) 16:00～16:45

場 所：与論高校

内 容：

1. 学校・地域コーディネーター紹介
2. 与論町海洋教育の取り組みの紹介
 - 説明①「与論島の海洋教育」
 - 説明②「海洋教育科『ゆんぬ学』での探究学習」
3. ゆんぬ学 WEB サイトの紹介
4. 質疑応答



⑥ 令和7年度 第3回 与論町海洋教育魅力化セミナー

テーマ：「島だちのチカラ」を育む ゆんぬ学の成果とその未来

目的：与論町海洋教育の魅力を小中高生の保護者へ伝える。小中高と重ねた「ゆんぬ学」を通じた探究活動が島だち（進学）にどのように活きたのか、具体的な事例を共有する。地域全体で子どもたちの成長を支える姿勢を示す。

主催：与論町海洋教育推進協議会

共催：与論町教育委員会

対象：中学・高校の保護者、学校関係者、役場関係者、地域住民

開催日時：令和7年6月18日(水) 18:00～20:00

場所：与論町役場 多目的ホール

参加費：無料

プログラム：

1. 開会のあいさつ
2. 与論町海洋教育の目的～ゆんぬ学が育む「島だちのチカラ」～
3. 小・中・高等学校での活動紹介
4. サイエンスキャンプ3期生活動成果
5. 卒業生パネルディスカッション
6. 閉会のあいさつ

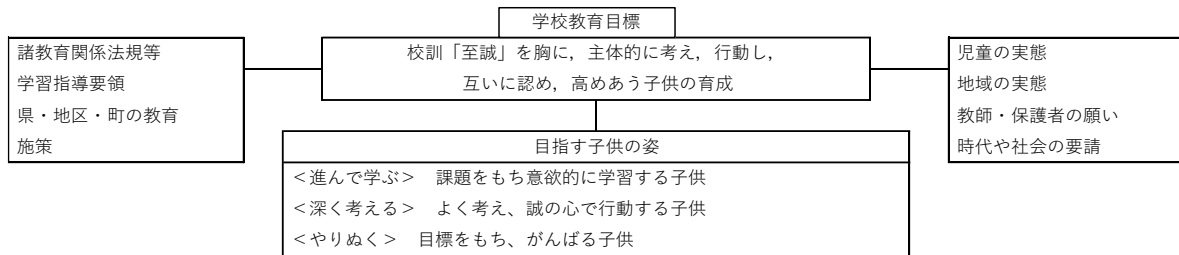
小中高一貫の「ゆんぬ学」での学びを体系的に示し、卒業生パネルディスカッションを通じて、探究活動が進路選択や自己成長にどのように活かされたかを多角的に紹介した。地域と学校、行政が協力して子どもたちの「島だちのチカラ」を育てることについて、改めて考え合う貴重な機会となった。



各校での海洋教育の位置付け

与論小学校
茶花小学校
那間小学校
与論中学校
与論高等学校

海洋教育科「ゆんぬ学」 全体計画



海洋教育学科「ゆんぬ学」の目標
探究的な見方・考え方を働かせ、地域の「人」「もの」「こと」に関わる横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。 (1) 地域の「人」「もの」「こと」に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。 (2) 地域の「人」「もの」「こと」の中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 (3) 地域の「人」「もの」「こと」についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

探究課題の解決を通じて育成を目指す具体的な資質・能力			
	中学年		高学年
知識及び技能	知識	ア 地域に何があるかを知り、その特徴や魅力を理解する。 イ 地域の人々には思いや願いがあり、連携・協力することでそれを実現しようとしていることを理解する。	ア 地域の自然・文化・産業等は、相互に関わりをもちながらその価値を形成していることを理解する。 イ 地域の自然、文化、産業等には課題があり、その克服のために多様な人々が関わりながら活動していることを理解する。
	技能	ア 情報を比較・分類するなど、探求の過程に応じた技能を身に付ける。	ア 情報を比較・分類・関連付けるなど、探求の過程に応じた技能を身に付ける。
	(1) コミュニケーションスキル	ア 理由や事例を挙げながら、筋道立てて話す。 イ 進行に沿って話し合う。 ウ 話の中心に気を付けて聞く。 エ 質問したり、感想を述べたりする。	ア 考えたことや伝えたいことを的確に話す。 イ 適切な言葉遣いで話す。 ウ 相手の意図をつかみながら聞く。 エ 立場や意図を明確にして計画的に話し合う。
	(2) 思考スキル	多面的に見る・多角的に見る、理由付ける、見通す、具体化する、抽象化する、構造化する	
	(3) 活用スキル	ア 使うよさを実感する。	ア 効果的に活用する。
	(4) 表現スキル	ア 相手や目的に応じた、多様な方法で表現する。 イ 組み立てを考え、中心をはっきりさせて発表する。	ア 相手や目的に応じて、効果的な方法を選択して表現する。 イ 資料等を効果的に使い、意図を明確にして発表する。 ウ 話の構成を工夫する。
思考力、判断力、表現力等	課題設定	ア 生活や学習の中の疑問や驚きから問題に気付いたり見付けたりする。 イ 追究の仕方を身に付ける。 ウ 簡単な追究計画を立てる。	ア 自分たちを取り巻く社会に目を向け、経験や既習事項と関連させて考え、課題をつくる。 イ 追究の仕方を工夫したりつくり出したりする。 ウ 見通しをもって、目的や内容に応じた追究計画を立て、修正する。
	情報収集	ア 自分たちの身近なところから資料や情報を集める イ 聞き取りやアンケートで情報を集める。 ウ パンフレットやインターネットなどから情報を集める。	ア 視覚・聴覚以外の感覚を使うなど、様々な方法を使って多様な情報を集める。 イ 必要な情報を選んで、メモや写真などの情報を記録に残す。
	整理・分析	ア 同じ仲間の情報をまとめる。 イ 視点を決めて比較する。 ウ 数量などで客観的に比較する。	ア 視点を明確にして他の情報と比較したり体験したことと資料を効果的に関連付けたりして考える。 イ 目的に応じて、必要な情報を比較する、分類する、関連付ける、多面的に見るなどして考える。
	まとめ・表現	ア 観察や聞き取りなどで調べたことを自分なりにまとめたり表やグラフを使って整理して表す。 絵、図や表・グラフ、絵地図、写真、動画、文章、イラスト、ポスター、新聞、レポート、HP、ポスターセッションなど	ア 活動の過程や結果、成果など学んだことを使って、工夫しながら分かりやすく整理して表す。

	振り返り	ア 友達とともに観点を明確にして活動を振り返り次の活動に活かす。 イ 自分のよさやできることに気付く。	ア 次の活動を意識して、成果や課題をもとに視点を明確にして学習の仕方や活動を振り返り、次の学習に活かす。 イ 自分の興味・関心の所在や自分らしさに気付く。
学びに向かう力、人間性等	関心・意欲	ア 「？」を意識して、問題意識をもって意欲的に活動する。 イ 自分なりの方法を考え、工夫しながら意欲的に活動する。	ア 自分の興味・関心の所在や自分らしさに気付く。
	生活に活かす	ア 活動内容のよさを生活に活かすために、自分なりに広げたり、決めたりしようとする。	ア 課題意識をもって、自分なりの方法を工夫しながら、他者や地域社会とともに、学んだことを実践していこうとする。
	他者理解尊重	ア 他者のよさを学ぶ。 イ 相手の立場を考え思いやる。	ア 違いやよさを認める。 イ 相互評価をする。
	協働	ア 力を合わせて活動に挑戦する。 イ 協働する楽しさを味わい、よさに気付く。	ア 力を合わせて活動し、成し遂げる。 イ 協働する大切さに気づき、喜びを感じる。
	対象との関わり	ア 対象(社会)に興味・関心をもち、その面白さに気付く。	ア 対象との関わりを深め、行動する。 イ 探求活動の経験を活かし、進んで地域の活動に参加しようとする。

【学習活動】 ・地域の実態、児童の実態を踏まえ、探究課題を設定する。 ・地域の人、もの、ことを生かした学習活動を行う。 ・学習成果を表現する場を設定する。	【指導方法】 ・児童の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。 ・個に応じた指導の工夫を行う。 ・体験活動を重視する。 ・各教科等との関連を重視した指導を行う。 ・言語により整理分析したり、まとめ表現したりする学習を重視する。 ・協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。	【学習評価】 ・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。 ・観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。 ・個人内評価を重視する。 ・期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。
---	--	---

各教科等との関連					
国 語	社 会	算 数	理 科	生 活	音 楽
・自分の思いや考えが相手に伝わるように表現する力 ・相手が伝えたい事柄を正確に理解する力 ・言語についての知識や理解、技能など	・社会的な事象に関心をもち、進んで調べようとする態度 ・統計、資料、年表用を読み取り活用する力 ・観察や調査した事柄を関連付ける力など	・数量や図形に興味をもち、調べたり試したりしながら課題を解決していこうとする力 ・目的に応じて表やグラフを使って表現する力 ・筋道を立てて考える力 など	・自然事象に関心をもち、進んで調べようとする態度 ・科学的に筋道立てて考え、問題を解決する力 ・見通しをもって観察、実験をする力 など	・身近な人々、社会、自然と関わる力 ・自分自身や自分の生活について新たな気づきをする力 ・生活上必要な習慣や技能など	・音楽によって養われる感性や情操 ・感じたことを歌や楽器で表現する力など
図画工作	家 庭	体 育	外国語活動外国語	特別の教科 道徳	特別活動
・表現や鑑賞の活動や等で養われた感性や情操 ・つくりだす喜び ・形や色、材料等から発想する力 ・材料や用具を用いる力 など	・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能・家庭生活をよりよくしようと工夫する力と実践的な態度など	・健康で安全な生活を営む実践力 ・たくましい心身など	・異なる言語や文化を理解する力 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 など	・課題解決に向けて主体的に活動するための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度 など	・話合いの仕方 ・集団をよりよくしていこうとする意欲及び態度 ・自発的、自主的に活動を進める力 など

地 域 と の 関 連					
海洋教育推進協議会	与論民俗村	サザンクロスセンター	与論の十五夜踊り保存会		
与論町役場	与論町漁協	地域の行事	与論の海	高齢者クラブ	サトウキビ など

茶花小学校 全体計画

令和7年度 ゆんぬ学 全体計画

＜与論町ゆんぬ学 グランドデザイン＞ 祖先の遺訓である誠を「島に誇りを持ち、誠実で利他の心があり、真理や理想を追求する精神」であるにとらえ、夢や希望を持ち、粘り強く学び、変化の激しい社会で困難を乗り越えて積極果敢にたくましく生きる人間の育成	＜学校の教育目標＞ ティダ（夢実現）に向かって、胸を張って堂々と生きる子供を育てる ＜ゆんぬ学の目標＞ ○ 与論の海とくらしに関心をもち、主体的に課題を解決できる子供を育てる。 ○ 活動内容に応じた追究方法やまとめ方を工夫しながら、協働して学習を進め、自分の考えを豊かに表現し、自らの生活のあり方を考える子供を育てる。	＜児童の実態＞ ・相手意識をもって考えを分かりやすく伝えたり、相手の話を聞いたりする力が十分ではない。 ＜保護者の願い＞ ・社会の変化に柔軟に対応できる強さをもって島だちとして欲しい。 ＜地域の特性＞ ・子供一人一人を地域で見守っている。
--	---	--

＜他教科の 関連＞ ① 各教科等 の「見方・ 考え方」 をつなぐ ② 学習内容 でつなぐ ③ 指導方法 でつなぐ	海洋教育を通して育みたい能力と態度（8 コンピテンシー）		＜地域との 連携＞ ○ 各種教育施設や社会教育機関団体等との連携 ○ 地域の教材や学習環境の積極的な活用 ○ 与論町漁業協同組合・海の再生ネットワークよるん・ヨロンSC・誇れるふるさとネットワーク等との連携
	情報収集・判断	海に関して適切な情報を収集し、総合的に判断する能力	
	対話	海の諸場面で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力	
	問題解決	海の諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力	
	持続的利用	海の恵みを持続的に利用できる能力	
	主体	海の諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度	
	継続	未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう海に関する知識や技能を継続的に学習する態度	
	関係	海を介した時空間的なつながりを尊重する態度	
	感動	海に親しみ大切に作る態度	

教材の工夫	問題解決的な学習における学習過程	指導方法・指導体制の工夫
○地域の教育資源活用 ・地域の人、物、事に進んで関わりをもつため町内の自然や人材、行事等の学習素材を調査し整備する。 ・ゆんぬ学や諸行事に協力支援できる人材を募り整理する。 ○教材化の視点 ・ゆんぬ学において教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるように①②③のつながりを意識した教材にする。 ・各教科で得た知識や技能を総合的に発揮できる教材にする。 ・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるような教材にする。 ※ 与論町海洋教育推進協議会との連携を図る。	（１）「課題をつかむ」段階 ・教科学習の発展として ・行事等への主体的な関わりから ・生活の中の気付きから ・様々な体験から （２）「計画・追究する」段階 ・どこで、どのような方法で調べるか。 ・だれに、どのようにして伝えるか。 （３）「まとめ・表現する」段階 ・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。 ・まとめたことをもとに交流する。 ・活動を振り返り、見直す。 ※ 体験活動を適切に位置付ける。 ※ 言語活動の充実を図る。	○教師の適切な指導 ・児童の学習状況に応じた適切な指導 ○学習形態の工夫 ・学校の枠を超えた町単位での取組 ・学年の枠を超えた異学年での取組 ・課題別グループによる取組 ・表現方法別グループによる取組 ○指導体制の工夫 ・ゲストティーチャーの活用 ・TTの活用（担任外教職員との連携） ○学習環境の工夫 ・活動内容により場の設定を工夫 ・学校図書館の資料の整備・充実 ・コンピュータソフトの整備・充実 ○評価の工夫 ・自己評価、相互評価 ※ 海洋教育における評価方法の工夫改善を図る。

<学校の教育目標> 確かな学力と豊かな心を持ち、心身ともにたくましい那間小の子供を育成する		<島だちの力> (島立ち) 与論島の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、ねばり強くしなやかに探究する心を育む。 (島発ち) 与論島の強みや問題点について理解し、それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。 (島建ち) 与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし、仮説を立て、自分にできることを実践する。																	
<与論町海洋教育の目標> 海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ、与論島の海とくらしの課題について探究することを通して、「島だちの力」を身に付ける。		<海洋教育の目標> ○ 与論の海と人に関心をもち、主体的に課題を解決できる子供を育てる。 ○ 活動内容に応じた追究方法やまとめ方を工夫しながら、協働して学習を進め、自分の考えを豊かに表現し、自らの生活のあり方を考える子供を育てる。																	
<他教科の関連> ① 各教科等の「見方・考え方」をつなぐ ② 学習内容をつなぐ ③ 指導方法をつなぐ	海洋教育を通して育みたい能力と態度 <table><tr><td>情報収集・判断</td><td>与論島の海とくらしに関して適切な情報を収集し、総合的に判断する能力</td></tr><tr><td>対話</td><td>与論島の海とくらしの諸場面で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力</td></tr><tr><td>問題解決</td><td>与論島の海とくらしの諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力</td></tr><tr><td>持続的利用</td><td>与論島の海の恵みや与論に生きる人々を持続的に活用できる能力</td></tr><tr><td>主体</td><td>与論島の海やくらしの諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度</td></tr><tr><td>継続</td><td>未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう与論島の海やくらしに関する知識や技能を継続的に学習する態度</td></tr><tr><td>関係</td><td>海を介した時空間的なつながりを尊重する態度</td></tr><tr><td>感動</td><td>海や人に親しみ、大切にする態度</td></tr></table>		情報収集・判断	与論島の海とくらしに関して適切な情報を収集し、総合的に判断する能力	対話	与論島の海とくらしの諸場面で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力	問題解決	与論島の海とくらしの諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力	持続的利用	与論島の海の恵みや与論に生きる人々を持続的に活用できる能力	主体	与論島の海やくらしの諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度	継続	未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう与論島の海やくらしに関する知識や技能を継続的に学習する態度	関係	海を介した時空間的なつながりを尊重する態度	感動	海や人に親しみ、大切にする態度	<地域との連携> ○ 各種教育施設や社会教育機関団体等との連携 ○ 地域の教材や学習環境の積極的な活用 ○ 与論町漁業協同組合・海の再生ネットワークよるん・ヨロンSC・誇れるふるさとネットワーク等との連携
	情報収集・判断	与論島の海とくらしに関して適切な情報を収集し、総合的に判断する能力																	
	対話	与論島の海とくらしの諸場面で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力																	
	問題解決	与論島の海とくらしの諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力																	
	持続的利用	与論島の海の恵みや与論に生きる人々を持続的に活用できる能力																	
	主体	与論島の海やくらしの諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度																	
	継続	未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう与論島の海やくらしに関する知識や技能を継続的に学習する態度																	
	関係	海を介した時空間的なつながりを尊重する態度																	
	感動	海や人に親しみ、大切にする態度																	
	教材の工夫 ○ 地域教育資源活用 ・ 地域の人、物、事に進んで関わりをもつため町内の自然や人材、行事等の学習素材を調査し整備する。 ・ 総合的な学習の時間や諸行事に協力支援できる人材を募り整理する。 ○ 教材化の視点 ・ 教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるように①②③のつながりを意識した教材にする。 ・ 各教科で得た知識や技能を総合的に発揮できる教材にする。 ・ 人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるような教材にする。 ※ 与論町海洋教育推進協議会との連携を図る。		問題解決的な学習における学習過程 (1)「課題をつかむ」段階 ・ 教科学習の発展として ・ 行事等への主体的な関わりから ・ 生活の中の気づきから ・ 様々な体験から (2)「計画・追究する」段階 ・ どこで、どのような方法で調べるか。 ・ だれに、どのようにして伝えるか。 (3)「まとめ・表現する」段階 ・ 分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。 ・ まとめたことをもとに交流する。 ・ 活動を振り返り、見直す。 ※ 体験活動を適切に位置付ける。 ※ 言語活動の充実を図る。																
指導方法・指導体制の工夫 ○ 教師の適切な指導 ・ 児童の学習状況に応じた適切な指導 ○ 学習形態の工夫 ・ 学校の枠を超えた町単位での取組 ・ 学年の枠を超えた異学年での取組 ・ 課題別グループによる取組 ・ 表現方法別グループによる取組 ○ 指導体制の工夫 ・ ゲストティーチャーの活用 ・ TT指導の活用(担任外教職員との連携) ○ 学習環境の工夫 ・ 活動内容により場の設定を工夫 ・ 学校図書館の資料の整備・充実 ・ コンピュータソフトの整備・充実 ○ 評価の工夫 ・ 自己評価、相互評価																			

海洋教育科「ゆんぬ学」(総合的な学習の時間を含む) 全体計画(令和7年度)

関係法規等 ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領	学校教育目標 未来の創り手となる生徒の夢実現に向けて、 確かな学力と豊かな心を育てる。	生徒の実態 優しく何事にも素直に取り組むが、主 体的な姿勢や表現力、粘り強さに欠け る面がある 家庭・地域の願い 学力の向上・心の教育 島に誇りをもち、島外でも、自立し打 たれ強く生きるとともに、自分の意見
めざす学校像 1 生徒と職員が目標を持ち、生き生き と活動する学校 2 生徒が自覚をもって登校し、自信を もって下校する学校 3 整然と整備され清潔で美しい学校 4 保護者や地域に信頼され、心のより	目指す生徒像 1 元氣な挨拶、明るい笑顔、「はい」という返事、自分の考えを伝 えられる生徒 2 目標をもって意欲的に学習する生徒 3 与論に誇りをもつ生徒 4 自尊感情をもち、仲間を尊重する活力あふれる生徒	めざす職員像 1 常に学び続ける職員 2 教育への使命感をもち、自ら燃え、情 熱を傾ける職員 3 チームとして生徒一人一人を育てる
「島だち」後の社会を生き抜く力の育成		
海洋教育科「ゆんぬ学」で育成する資質・能力 【島立ち】 与論島に生きる人々との関 わりの中で自己肯定感・自 己有用感を高めるとともに、 粘り強くしなやかに探究す る心を育てる。 【島発ち】 与論島の強みや問題点につ いて理解し、それらをつなぐ ことで与論島の概念を形成 する。 【島建ち】 与論島の強みや問題点から 自分なりの問いを見いだし、 仮説を立て、自分にできる ことを実践する。		

海洋教育科「ゆんぬ学」の目標 海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ、与論島の海とくらしの課題について探究することを通して「島だちの力」を身に付ける。 (1) 探求的な学習の過程において、地域の人、もの、ことから課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、地域の良さに気づき、その良さが人々の努力や工夫に支えられていることに気付く。 (2) 地域や社会の中から課題を見出し、解決に向けて、仮説をもとに調査したり、情報をもとに考察したりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠をもとに表現する力を身に付ける。 (3) 探求的な学習に主体的・協働的に取り組み、地域や社会の発展に寄与しようとする態度を育成する。

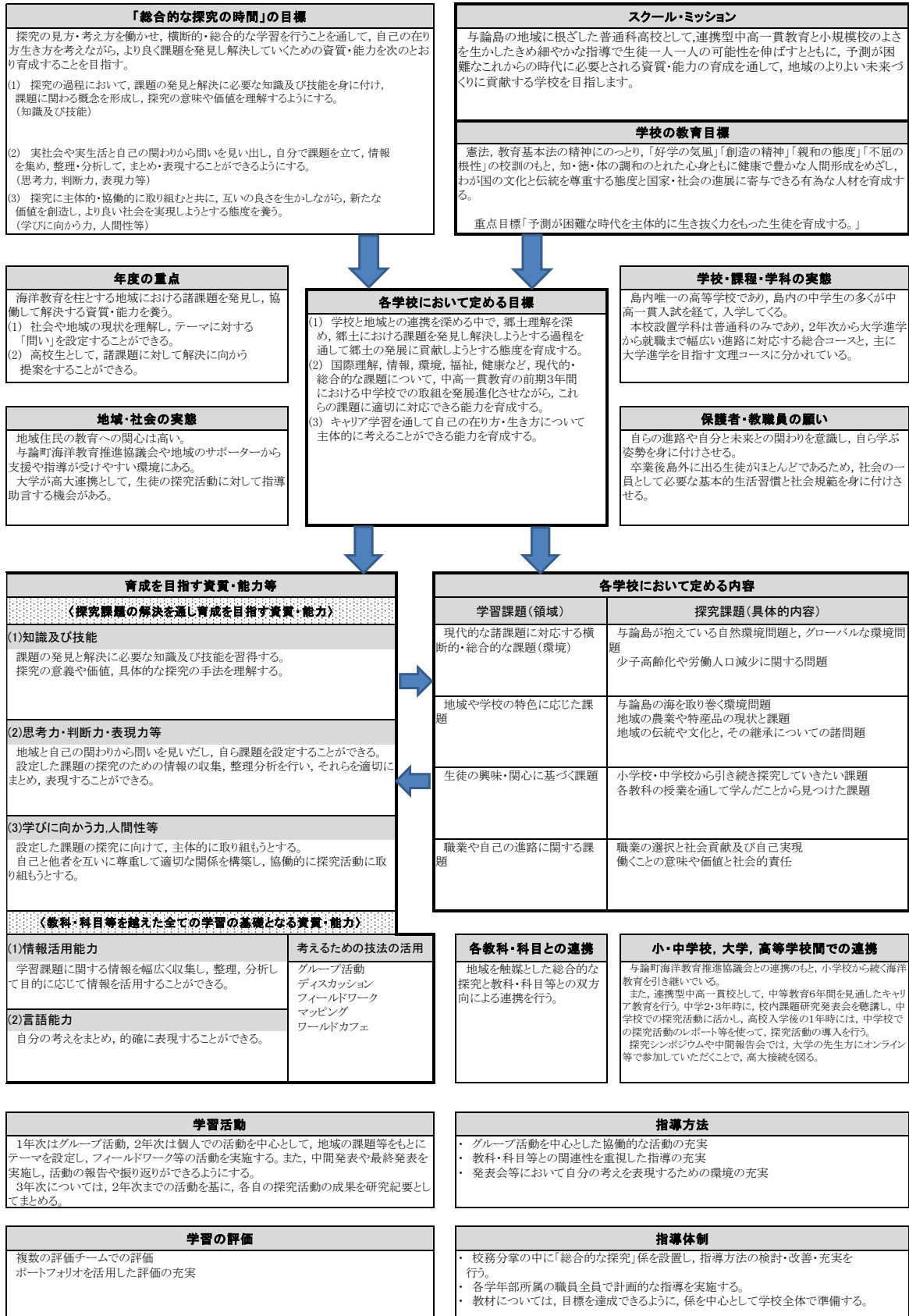
海と人との共生に係る見方・考え方			
海と人に親しむ 与論の海や与論に生きる人々の魅力を、豊かな感受性をもって捉える	海と人をつなげる 海に囲まれた与論の自然や文化と、そこに生きる人々とのくらしを関連付ける	海と人を守る 与論の海の環境保全や、離島である 与論のくらしの持続について考える	海と人を生かす 与論の海や与論に生きる人々を、よりよい未来を創造するための資源として捉える

各学年の重点目標及び主な活動、指導内容			
1学年【広げる】 郷土に関する講話などから産業や職業に対する理解を深める。また、修学旅行に向けた大牟田の学習、地域の特色をいかした体験活動を通して、与論島に関する知識を広げ、主体的に学ぶ力の基盤を培う。 【活動例・指導内容】 ・集団体験学習での海に関する講話、海でのマリンスポーツ、安全に関する講話 ・郷土学習や修学旅行事前学習(口之津移住に関する史実の理解等) ・ユンヌフツッパ学習 ・職業調べ、職業講話 ・修学旅行に向けた事前学習 ・小学6年生との交流会	2学年【絞る】 1・2年で体験・見聞したことなどから、自分なりに与論島の強みや課題を絞り、わかりやすく伝えられるように、表現力を高める。また、地域の人とのふれあいの中で、自己の生き方について考え、立志式等への取組を通して、生き方を追求する態度を育てる。 【活動例・指導内容】 ・与論島に関する講話・見学 ・修学旅行(大牟田・荒尾地区と与論会との交流等) ・ユンヌフツッパ学習 ・伝統芸能体験 ・ミニレポート作成 ・与論町海洋教育フェア ・立志式	3学年【深める】 2学年で見つけた問いに対する自分なりの解決策を考えるなど課題を深め、レポートにする。また、卒業後の進路についての活動を通して、自己実現に意欲的に向かう姿勢をもたせ、地域や社会の発展に寄与しようとする態度を育てる。 【活動例・指導内容】 ・職場体験学習 ・ユンヌフツッパ学習 ・海洋教育のまとめレポートの作成 ・与論高校一日体験入学 ・文化祭 ・礼節を備えた自己表現	特別支援学級【感じる】 海の素晴らしさに感動する態度を育み、安全に海に親しむ方法を学ぶ。 【活動例・指導内容】 ・該当学年での総合的な学習における活動への参加(生徒個人の実態に応じた対応をしながら、レポートへの取り組みについては、進路希望も聞きながら、本人保護者と話をしながら、できる範囲で取り組んでいく。)

各教科との関連(身につけさせたい態度や能力など)			
各教科 教科の目標の中に「育成すべき力と態度」を見いだし、その向上に努める。(例：国語や英語の対話力など)教科の学習を通して、与論の海や海を通じた世界とのつながりについて考える契機とする。また将来の生活に必要な知識や技能を習得させ、生涯にわたって学習する喜びを見出させる。	道徳 人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。自己が属する様々な集団の意義について理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める。勤労の尊厳や意義を理解するとともに、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。「郷土の先人」「不屈の心」「与論のこころ」等を活用し、郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を育成する。	特別活動 人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。学校行事では、「集団体験学習」、「修学旅行」、「文化祭」などの行事で「育成すべき力と態度」を育てることを意識した指導を実践していく。	その他の活動 朝読書の活動や給食指導、保健指導、生徒会活動等あらゆる教育活動の中で「育成すべき力と態度」を見いだし、その能力・態度の向上に努める。(例：朝読書の中の情報収集・判断力の育成など) 進路指導においても島だちを見届けた指導を行い、高等学校卒業後に自立した生活を送れるよう郷土に誇りをもち、その良さを発信できる対話力を高めいく指導を実践していく。
国語 多様な情報の中から必要なものを選択し、目的に応じて整理するとともに、相手に分かりやすく伝える能力	保健体育 課題解決のために、自ら解決のために努力したり、グループで協力したりしながら解決する態度	技術 身近な生活に問題を見いだし、よりよい生活を目指して解決しようとする態度	外国語 コミュニケーション能力の基礎を身に付けスピーチやディベートなどで自己を表現したり他者を理解したりする能力
社会 社会的な事象から必要な情報を選択する能力、及び自ら課題を調べて解決する態度	家庭 コミュニケーション能力の基礎を身に付けスピーチやディベートなどで自己を表現したり他者を理解したりする能力	美術 表現方法のひとつとして、美術的な様々な表現方法を身に付ける	
数学 数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度			
理科 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度			
音楽 表現方法のひとつとして、音楽の基礎的な技能を身につける			

「総合的な探究の時間」の全体計画(案)

与論高等学校(全日制課程)



* 二重線で囲んだ箇所は、記載必須項目。

* 「各学校において定める内容」については変更点も大きく、例を記載した。

各校の学習指導案

与論小学校
茶花小学校
那間小学校
与論中学校
与論高等学校

与論小学校 指導計画

3年生 年間テーマ		ふるさと与論たんけんたい	
単元名		与論のいいところをさがそう	
ねらい		私たちの郷土、与論島を囲む海に対する関心を深める。 与論島のいいところ探しを通して、郷土「与論島」のよさを再確認することができる。	
1学期/時数17		2学期/時数0	
3学期/時数0			
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やはたらきかけ
4	1	海洋教育科「ゆんぬ学」の学び方を知る	おおよそどんな活動（与論のいいところ、与論島の昔の暮らし）をしていくのかを説明し、意欲を高める。
	2	学習計画を立てる	みんなが話し合う中で、これからの学習の大まかな計画を立てる。 記録などのファイルの仕方などについても説明する。
	3	与論のいいところはどこだろう 海が恵んでくれているものは何だろう	与論のいいところを話し合わせる。与論を囲む海にも関心を向けさせる。
	4	活動計画を立てる	与論小の周辺や、与論島全体の様子が分かるように探検する計画を立てる。（社会科の方位の学習と関連）
5	5-6	与論小学校周辺を探検しよう	実際に与論小の周辺を探検し、島を見渡せる高い場所として、サザンクロスセンターに注目させる。
	8-11	サザンクロスセンターから、与論島全体を見渡そう。 ※ 他の探検候補 ・ 赤崎海岸 ・ 大金久 ・ ゆんぬ体験館 など	サザンクロスセンターへの見学は、町に申請を出せば、無料で行うことができる。可能であれば、島の周囲について、解説することができる講師をお願いする。
6	12-13	与論島のさとうきびについて知ろう	サザンクロスセンター見学のときに、島にさとうきび畑が多かったことに注目させ、関係施設（さとうきび畑・工場）の見学を計画し、まとめさせる。（社会科「農家の仕事」との関連）
	14-17	学習をまとめよう	探検を通して発見したことについて、絵や文、写真等でまとめる。

単元名	郷土芸能に親しもう		
ねらい	沖縄の伝統文化の一つであるエイサーを体験することを通して、沖縄の伝統文化に親しみ、その意義を考えることができる。		
1学期/時数10		2学期/時数10	3学期/時数10
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やほたらきかけ
6	1	オリエンテーションをする。	エイサーについて、インターネット等で調べ、単元の見直しをもたせる。 夏休み前に、講師の指導により体験で踊ってみる。
	2-10	エイサーについて調べる。 例) 音楽や衣装等	発表の場は、運動会であることを伝える。可能であれば、講師の踊りをタブレットPC等に保存し、夏休み中に練習するよう声をかける。
9～11	10-17	エイサー体験を行う。	講師の踊り方や自分の踊っている様子を、タブレットやビデオで記録し、踊り方を客観的に見て、改善点を話し合わせる。
	18	講師の方々にお礼の言葉を伝える	敬語や言葉の表現について指導する。
	19-20	エイサーについて調べたことをまとめる。	エイサーの歴史や文化、実際に踊った感じ等を振り返るようにする。 ※ 運動会で使う、エイサー衣装の準備・片付け等を含む

単元名		与論島の昔の暮らしを調べよう	
ねらい		地域の高齢者の若いころの生活について調べ、よりよく交流していこうとする。（高齢者との交流活動） 与論民族村の見学や体験を通して、昔の暮らしについて知ることができる。	
1学期/時数0		2学期/時数11	3学期/時数12
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やほたらきかけ
11	1-2	学習計画を立てる	サザンクロスセンター等に展示されていた写真などから、与論の昔の暮らしについて考えさせ、学習計画を立てる。
12	3-11	身近な人に聞いたり、写真を見たりする。	おじいちゃん、おばあちゃんに聞いてみたり、インターネットで調べたりして、昔の様子を知る。 ※ 参考：webページ「東京与論会」の写真 http://tokyo-yoronkai.jp/
1	12-13	地域の高齢者に話を聞く	地域の高齢者との交流活動を活用し、昔の暮らしについて話を聞く。
2	14-19	与論民族村の見学や体験を行う	菊先生に依頼し、見学や体験活動を行う。
3	20-23	体験したことをまとめる	学習を通して、考えたことを自由に発表し合い意見交換させる。 教えていただいた方々に、お礼の気持ちを伝える。 調べて分かったことを新聞に表す。

単元名		ユンヌフトゥバに親しもう	
ねらい		ユンヌフトゥバの言葉や会話を自分たちで調べ、ユンヌフトゥバへの親しみを深める。 ユンヌフトゥバに親しむ活動を通して、郷土に愛着と誇りを持つ。	
1学期/時数3		2学期/時数6	3学期/時数1
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やほたらきかけ
6	1	学習の目的とおおまかな流れを知る。	ユンヌフトゥバの大切さ、すばらしさやこれまでの学習の経緯などをおさえ、島の宝であるユンヌフトゥバに親しむ学習であることを伝える。
	2	学習計画を立てる ○テーマ ユンヌフトゥバを使って昔話を発表しよう。 ○グループ分け ○昔話を選ぶ。 (例) ももたろう、大きなかぶ、うらしまたろう、三匹のこぶた、たぬきの糸車、赤ずきん・・・ ○調べる方法 ・図書館の資料（ユンヌフトゥバの本など） ・「ゆんぬふとうばカルタ」 ・お家の人、近所の人に聞く。 ・ゲストティーチャーに聞く。 ・インターネット など ○まとめ方 ・劇 ・紙芝居 ・スライド作成 ・音読 など ○昔話を選ぶ。	知っている昔話をユンヌフトゥバへ変えて発表することを共通のテーマとして学習を進めていくことを知らせる。 テーマを確認する。 グループ分け、昔話の選択、調べ方、まとめ方などを話し合わせる。 発表する相手について確認できるとよい。（お互いか、他学年・保護者・地域の人かなど。） 昔話をいくつか紹介し、選択の参考にさせる。馴染みのある昔話の方が取り組みやすいと思われる。 事前に資料を収集したり、家庭に協力を呼び掛けたりしておく。 必要に応じて地域の人材（ゲストティーチャー）を活用する。 グループごとにどの昔話にするか決めさせる。学校図書館を利用するのもよい。
9～12	7	3	決まったことを確認し、次時からの活動への意欲をもたせる。
	4-7	計画に沿って、各グループ、個人で調べる。 調べたことをまとめる。 ・劇の練習 ・紙芝居作り ・スライド作成 ・音読練習 など	「ゆんぬふとうばカルタ」や図書館の資料、インタビュー（おうちの人、地域の人）、インターネットなどを活用させる。 ナレーション部分は共通語にして会話文だけユンヌフトゥバで話す、話の中の言葉や会話の一部分を知っているユンヌフトゥバに変える、昔話全文でなく好きな場面を選ぶというように、子供たちだけでも負担なく進められるように配慮する。 事前に資料を収集したり、家庭に協力を呼び掛けたりしておく。 必要に応じてゲストティーチャー（地域の人）を招き、活動を支援してもらう。
	8	発表会をする。 感想を発表し、まとめる。	自信をもって学習の成果を発表する場になるようにする。
	9	「ゆんぬふとうばカルタ」をしたり、「ユンヌ検定」クイズに挑戦したりする。	「ゆんぬふとうばカルタ」や、「ユンヌ検定」クイズに親しませる。 ※ 「ユンヌ検定テキスト」は事前に配布し、読ませておくとうい。
1～3	10	まとめをする。	感想などを発表させて活動のまとめをする。

4年生 年間テーマ	伝統をつなぐ島 与論の文化や行事を知ろう
--------------	----------------------

単元名	十五夜踊りについて調べよう		
ねらい	与論の伝統文化の一つである与論十五夜踊りの体験することを通して、十五夜踊りが現在まで受け継がれてきた意義について考えることができる。 十五夜踊りについて調べ、十五夜踊りが現在まで受け継がれてきた意義について考えることができる。		
1学期/時数20	2学期/時数10	3学期/時数0	
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やほたらきかけ
4	1-2	学習計画を立てる	発表の場は、運動会であることを伝える。 ※男子は十五夜踊り 女子はエイサー
5	3-11	十五夜踊りについて調べる。 (情報教育) インターネット検索の使い方やタイピング練習を含む	発表方法やグループ分けをして、学習の流れを確認する。 十五夜踊りについてインタビューをしたり、見学に行ったりする。
6~7	12-20	十五夜踊りについてまとめる方法を考える。 (情報教育) 著作権教育、スライドの作り方を含む。	調べたことをまとめ、発表するために、Googleスライド等の使い方を教える。また、写真を使用する場合には許可が必要なこと等の、情報モラル教育を行う。
9~10	20-26	与論十五夜踊りとエイサーに分かれて、計画に従って練習をする。	十五夜踊りとエイサーの講師を紹介し、練習を行う。
11	27-28	運動会で発表する。	衣装合わせや片付け等の時間を含む。
	29-30	調べ学習の発表練習をする。 発表する。	学習を通して、考えたことを自由に発表し合い意見交換させる。 教えていただいた方々に、お礼の気持ちを伝える。 調べて分かったことを新聞に表す。

単元名	与論の文化や行事について調べよう		
ねらい	与論の文化や行事について調べ、それらが現在まで受け継がれてきた意義について考えることができる。 与論の文化や行事について調べる活動を通して、ふるさとへの思いや自己の生き方につなげて考えることができる。		
1学期/時数0	2学期/時数13	3学期/時数17	
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やほたらきかけ
10	1-2	与論の文化や行事について話し合う。学習計画を立てる	昔から伝わる行事にどんなものがあるか話し合わせ、学習意欲を高める。 ※海洋教育フェアでの発表がある。
11~12	3-9	与論の文化や行事について、グループで調べる。 【例】 浜下り、豊年祭（内容）、旧正月、島唄、与論の食べ物等が考えられる。 ※十五夜踊り以外	何について調べたいか考えさせる。また、ヨロン海洋教育フェアで発表があることを知らせる。 その発表のために、調べたことはスライドにまとめる。 ※R6は芭蕉布体験を民俗村で行った。
	10-13	調べたことをまとめる。 発表準備をする。	調べて分かったことをグループごとに役割分担をして、スライドにまとめさせる。 2学期中に発表準備（発表原稿など）を終わらせ、1月は校内リハーサルができるようにする。
1	14-24	校内リハーサルをする。 砂美地来館でリハーサルをする。	管理職・海洋教育担当と校内リハーサルを行う。 発表時間を確認する。 ステージの会場準備をした状態でリハーサルができるので、立ち位置などを確認させる。 他の学校の発表の聞き方なども指導する。
	25-28	ヨロン海洋教育フェアで発表をする。	発表後には、自分たちの発表振り返りや各学校の発表を見た感想を書かせる。
2	29-30	学習を振り返る。	調べ学習や発表を通して考えたことを発表し合い、ふるさとへの思いや自己の生き方につなげて考えさせる。

単元名		ユンヌフトゥバに親しもう	
ねらい		ユンヌフトゥバの言葉や会話を自分たちで調べ、ユンヌフトゥバへの親しみを深める。 ユンヌフトゥバに親しむ活動を通して、郷土に愛着と誇りを持つ。 ※3年と合同	
1学期/時数3		2学期/時数6	3学期/時数1
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やほたらきかけ
6 9～12 1～3	1	学習の目的とおおまかな流れを知る。	ユンヌフトゥバの大切さ、すばらしさやこれまでの学習の経緯などをおさえ、島の宝であるユンヌフトゥバに親しむ学習であることを伝える。
	2	学習計画を立てる ○テーマ ユンヌフトゥバを使って昔話を発表しよう。 ○グループ分け ○昔話を選ぶ。 (例) ももたろう、大きなかぶ、うらしまたろう、三匹のこぶた、たぬきの糸車、赤ずきん・・・ ○調べる方法 ・図書館の資料(ユンヌフトゥバの本など) ・「ゆんぬふとうばカルタ」 ・お家の人、近所の人に聞く。 ・ゲストティーチャーに聞く。 ・インターネット など ○まとめ方 ・劇 ・紙芝居 ・スライド作成 ・音読 など ○昔話を選ぶ。	知っている昔話をユンヌフトゥバへ変えて発表することを共通のテーマとして学習を進めていくことを知らせる。 テーマを確認する。 グループ分け、昔話の選択、調べ方、まとめ方などを話し合わせる。 発表する相手について確認できるとよい。(お互いか、他学年・保護者・地域の人かなど。) 昔話をいくつか紹介し、選択の参考にさせる。馴染みのある昔話の方が取り組みやすいと思われる。 事前に資料を収集したり、家庭に協力を呼び掛けたりしておく。 必要に応じて地域の人材(ゲストティーチャー)を活用する。 グループごとにどの昔話にするか決めさせる。学校図書館を利用するのもよい。
	3	決まったことを確認する。	決まったことを確認し、次時からの活動への意欲をもたせる。
	4～7	計画に沿って、各グループ、個人で調べる。 調べたことをまとめる。 ・劇の練習 ・紙芝居作り ・スライド作成 ・音読練習 など	「ゆんぬふとうばカルタ」や図書館の資料、インタビュー(おうちの人、地域の人)、インターネットなどを活用させる。 ナレーション部分は共通語にして会話文だけユンヌフトゥバで話す、話の中の言葉や会話の一部分を知っているユンヌフトゥバに変える、昔話全文でなく好きな場面を選ぶというように、子供たちだけでも負担なく進められるように配慮する。 事前に資料を収集したり、家庭に協力を呼び掛けたりしておく。 必要に応じてゲストティーチャー(地域の人)を招き、活動を支援してもらう。
	8	発表会をする。 感想を発表し、まとめをする。	自信をもって学習の成果を発表する場になるようにする。
	9	「ゆんぬふとうばカルタ」をしたり、「ユンヌ検定」クイズに挑戦したりする。	「ゆんぬふとうばカルタ」や、「ユンヌ検定」クイズに親しませる。 ※「ユンヌ検定テキスト」は事前に配布し、読ませておくといよい。
	10	まとめをする。	感想などを発表させて活動のまとめをする。

5年生 年間テーマ	与論の恵みの味と海・わたしたちの夢
--------------	-------------------

単元名	与論の恵みの味と海		
ねらい	与論の特産物であるさとうきびを栽培し、黒糖を昔ながらの方法でつくことで、先人の知恵や苦勞を体験することができる。		
1学期/時数8 2学期/時数2 3学期/時数14			
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やはたらきかけ
4	1-2	さとうきびについて「どんなイメージをもっているか」考えを出し合う。	イメージを出し合う際は、ブレンストーミング法を使い、自由に出し合えるようにする。ブレンストーミング法の説明も事前に行う。
5	3-4	与論のさとうきびについて調べる。	事前に育て方の資料を準備しておく。
	5-6	きび農家の方をお招きし、さとうきびについて学ぶ。	農家の方と連絡を取り、日程を調整する。 事前に子供たちからの質問をまとめるなど、有意義な時間になるように準備をしておく。
6～12	7-10	さとうきびの苗を植え、畑を作る。 定期的に手入れを行う。	除草は、つる性の植物を中心に行わせる。また、まきつくとも成長を妨げるという理由を説明する。
1	10-11	きびかりをする。	学校農園のきびの量では足りないと思われるので、きびかりをさせてもらえる保護者へ事前に依頼をする。（学級PTAの際にお願いするとよい）
2	12-17	黒糖づくりをする。	民俗村で黒糖づくりをするため、12月ごろには連絡をし、日程を押さえておく。
3	18-22	黒糖を使ったお菓子作りに挑戦する。	家庭科の調理実習で学んだことが生かせるようにする。
	23-24	学習の振り返りを行う。	学習を通して、考えたことを自由に発表し合い意見交換させる。

単元名	自分の夢について考えよう		
ねらい	自分の夢についてのイメージを広げ、その実現に向けた具体的な取組について調べ、発表原稿を作成することができる。 自分の作成した発表原稿をもとに、相手意識をもって、夢語りをすることができる。		
1学期/時数11 2学期/時数0 3学期/時数0			
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やはたらきかけ
4	1	「どんな人になりたいか」について、ウェビング法を使って、イメージを広げる。	ワークシートを準備する。
5	2-5	イメージを整理して、「どんな人になりたいか」を発表する。	具体例を示しながら、ウェビング法の説明をする。
6	6-7	「どんな人になりたいか」を具体化するために仕事とリンクさせ、小・中・高段階でがんばりたいこと等を考え、ワークシートにまとめる。	考えがまとめやすいようワークシートを準備する。 活動が速く進んでいる児童には、発表原稿の作成に取り組ませる。（原稿用紙の準備）
	8-9	ワークシートをもとに、発表原稿を作成する。必要に応じて、ポスター等伝えるための工夫をする。	発表は3分間以内であることを伝える。 発表原稿が仕上がった児童は、タイマーを使って、時間を図りながら練習をさせる。 児童同士で練習をさせ、互いに感想を伝えさせる。 教師は、児童の発表を聞き、伝えるというポイントから助言を行う。
	10	5・6年合同で、校内夢語り大会をする。	校内夢語り大会の説明をする。（制限時間3分程度） 付箋やタブレット等を使い、感想を交流させる。
	11	夢語り大会の感想を伝え合い、活動をふり返る。	町の夢語り大会で発表する児童に対して、よりよい発表となるよう児童相互にアドバイスをさせる。

単元名		与論のサンゴを守ろう	
ねらい		与論のサンゴや海や環境を守るために人々がどのような取組をしているかを知り、保全活動体験などを通してサンゴなどの海や環境を守ることの大切さを知る。 与論のサンゴや海に関する事柄を調べ、様々な問題や今後のことについて、自己の生き方につなげて考えることができる。	
1学期/時数0		2学期/時数18	3学期/時数0
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やほたらきかけ
9	1	与論の海やサンゴの現状について知っていることを話し合う。	与論の海の生き物（少なくなってきたサンゴや絶滅危惧種の魚など）や海全般について知っていることを話し合わせる。付箋等に自由に書かせるなどして視覚的に理解しやすいようにする。
	2	与論の海やサンゴなどの現状について話を聞く。	与論の海の現状に詳しい方に講師として来ていただき、話をしてもらう。
	3-6	与論のサンゴの現状等について、各グループ、個人で調べる。	図書館の資料やインターネットなどを活用させる。 <予想される内容> ・サンゴとはどのような生き物か ・与論のサンゴの現状 ・サンゴを守るための取組 等
10	7-10	必要に応じて実地学習（インタビュー、砂浜の調査、ゴミ拾いなど）を行う。	できれば学校の外に出て学習する機会を設ける。
	11-14	サンゴについて自分たちで調べたことや体験活動で学んだことなどをグループでまとめる。	タブレットを用いた発表や新聞、パンフレットなど好きな方法でまとめさせる。
11	15	発表会をする。	各発表に対する感想、質問等の意見交換をする。
	16	学習の振り返りを行う。	各発表に対する感想、質問等の意見交換をする。
12	17-18	サンゴの移植・保全活動体験をする。	委員会を通して与論漁業協同組合に連絡を取り、サンゴを再生する活動への参加を依頼し、体験をさせてもらう。 （場所：茶花漁港） ※例年12月上旬から中旬ごろに行う。

単元名		郷土芸能に親しもう	
ねらい		与論の伝統文化の一つである与論十五夜踊りについて調べ、体験することを通して、十五夜踊りが現在まで受け継がれてきた意義について考えることができる。 沖縄の伝統文化の一つであるエイサーを体験することを通して、沖縄の伝統文化に親しみ、その意義を考えることができる。	
1学期/時数0		2学期/時数7	3学期/時数0
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やほたらきかけ
9	1	オリエンテーションをする。	発表の場は、運動会であることを伝える。
	2	与論十五夜踊りとエイサーに分かれ、単元の流れを知る。	十五夜踊りとエイサーの講師を紹介し、単元の見通しをもたせる。
10	3-6	それぞれに分かれて、計画に従って練習をする。	タブレットやビデオで記録し、踊り方を客観的に見て、改善点を話し合わせる。
11	7	講師の方々にお礼の手紙を書く。	敬語や書き言葉の表現について、期間指導をしながら指導する。

単元名		ユンヌフトゥパに親しもう	
ねらい		ユンヌフトゥパの劇に取り組む活動を通して、ユンヌフトゥパへの親しみを深め、郷土に愛着と誇りを持つ。	
1学期/時数3		2学期/時数6	3学期/時数1
指導する月	時数	主な学習活動	教師の具体的な支援やほたらきかけ
6	1	学習の目的とおおまかな流れを知る。	※講師を紹介する。
	2	劇の内容（シナリオ）を知り、配役等を決める。	学習の目的や内容を知らせる。（事前に講師と打ち合わせをし、内容等を確認しておくようにする。）
7～11	3-6	劇の練習をする。	講師の演技指導の下、劇の練習を進める。
	7	発表会をする。	・自信をもって発表できるようにする。
	8	活動を振り返り、まとめをする。	活動を振り返らせ、ワークシートなどに感想等を書かせ、発表させる。
12	9	「ゆんぬふとうばカルタ」をしたり、「ユンヌ検定」クイズに挑戦したりする。	「ゆんぬふとうばカルタ」や、「ユンヌ検定」クイズに親しませる。 ※「ユンヌ検定テキスト」は事前に配布し、読ませておくとうい。
1～3	10	まとめをする。	感想などを発表させて活動のまとめをする。

茶花小学校 単元計画

3年生 身近にある自然環境と文化 ～ユンヌのひみつさがし～ 「ユンヌたんけんたい」★海洋教育25時間

	小単元（学習活動）	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
1	ユンヌのいいところはどこ？ (文化・生き物・海・食べ物・歴史・施設・人・環境等のよさを引き出す)	4	身近な自然において、生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。(知識)	体験活動から課題を見付けることができる。(課題の設定)	自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする。(主体性)	・KJ法 ・ウェビングマップ	・社会科「まちたんけん」 ・魚図鑑 ・生き物図鑑 ・与論観光マップ
2	ひみつをさがしに自然にでかけよう (昆虫・植物探し) ・計画、探検、まとめる	6	身近な自然において、生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。(知識)	教師の支援を受けて、手段を選択し、適切に情報を収集する。(情報の収集)	自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする。(協働性)	・カメラ ・虫かご ・虫網	・生き物図鑑 ・植物図鑑
3	ひみつをさがしに海に出かけよう (生き物・貝殻探検) ・計画、探検、まとめる	6	生物は、色、形、大きさに違いがあり、生育の環境が異なることを理解する。(知識)	教師の支援を受けて、手段を選択し、適切に情報を収集する。(情報の収集)	自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする。(協働性)	・カメラ ・水辺観察セット	・魚図鑑 ・B&G
4	ひみつをさがしに島をめぐる (春の一日遠足)		自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定でないことを理解する。(知識)	施設担当者の話やパンフレットを参考にしながら、情報を収集しようとしている。(情報の収集)	自己の生き方やものとの考え方を考え、よりよく生きようとする。(将来展望)	・カメラ	・バスの手配 ・民俗村 ・サザンクロスセンター ・赤崎鍾乳洞 ・赤崎海岸
5	ユンヌのひみつをしょうかいしよう ・新聞、ペープサート、絵本、劇、図鑑、クイズ、マップなど	9	情報を整理・分類して探求の過程に応じた技能を身につけている。(技能)	調べたことを分かりやすくまとめ表現する。(まとめ・表現)	探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。(他者理解)	・グラフ	・1,2年生に聞いてもらう

3年生 地域の農業と生産者 「与論とわたしたち～特産物から～」 ◆海洋教育17時間 ※R7より総合から海洋教育に変更。

1	・じゃがいもについての話を聞こう。 ・じゃがいもを植えよう。 ・じゃがいもの観察や世話をしよう。 ・じゃがいもを収穫して、じゃがいもを使った料理に挑戦しよう。 ・学んだことを発信しよう。	17	じゃがいもの生態を知り、特徴や、世話の仕方、収穫の仕方を知る。(技能) 学んだことをワークシートやスライドにまとめ、ふりかえることができる。(技能)	地域の生産者たちとのふれあいから島のよさを見つめなおし、自分たちにできることを見つけ、学習計画を立てることができる。(課題設定)	わからないことや疑問に思うことを自分から進んで調べ、スライドやワークシートにまとめることができる。(主体性) 自分の発表に自信をもち、考えたことや伝えたいことを明瞭に話すことができる。(まとめ・表現)	インタビュー カメラ キャッチコピー ピラミッド チャート	叶大輔さん (JA青年部)
---	---	----	---	--	---	---	---------------

3年生 身近にある自然環境と文化 ～ユンヌのひみつさがし～ 「教えて、ウプバーバー」★海洋教育25時間

	小単元（学習活動）	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
1	おじいちゃんおばあちゃんに教えてもらおう ・与論の昔の様子 ・与論の昔遊び ・地域行事、郷土料理	4	昔の道具や生活の習慣には、自然との結びつきが強く、先人の知恵があることを理解する。(知識)	必要な情報を収集し、蓄積する。(情報の収集)	課題解決に向けて、探究活動に取り組もうとしている。(主体性)	・インタビュー	・与論観光マップ ・行事写真 ・与論昔DVD ・GT招聘
2	昔の遊びを体験しよう ・長寿会との交流会 ・お礼の手紙(交流給食あり)	3	昔の遊び道具の材料には、自然と生活が身近にあり、先人の知恵があることを理解する。(知識)	解決の方法や手段を考え、見直しをもって取り組む。(課題の設定)	自他の良さを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする。(協働性)		・長寿会への連携
3	ユンヌの文化・伝統行事を調べよう ・郷土料理 ・三線 ・与論の歌 ・ユンヌフトゥバ ・十五夜祭り ・奉納相撲など	6	自分が興味・関心をもった課題について、様々な調べ方の中から選択する技能を身につけている。(技能)	情報収集の手段を選択する。(情報の収集)	興味をもったことを進んで調べようとする。(主体性・協働性) 探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、夢や希望などをもとうとする。(将来展望)	・カメラ ・電話 ・インタビュー ・インターネット ・図書 ・フリップボード ・マンガラート ・マトリクス	かりゆしバンドの田畑さん、牧さん いっちゃん 原田誠一郎さん ※国立国語研究所HP(ユンヌフトゥバで検索すると動画) 民俗村(方言)
4	発表会を開こう ・招待状作り ・テーマをしぼり、実体験したり、表現したりして発表する。	9	情報を整理・分類して探求の過程に応じた技能を身につけている。(技能)	調べたことを分かりやすくまとめ表現する。(まとめ・表現)	探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとしている。(他者理解)	・ピラミッドチャート	12月の学級PTA前(5校時)に保護者向けに発表する。

地域の高齢者や文化に携わっている方に訪問して課題を解決しなければならない部分もある。(週末や放課後)

ユンヌタイム 3時間 ※郷土教育の項に記載。

4年生 身近な自然環境と島の人々、姉妹校による他地域とのつながり 「海と島とわたしたち」 ★海洋教育 7 0 時間

	小単元（学習活動）	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
1	「海からのおくりもの」★海 ・海探検 ・潮だまりにいる生物の観察。 海や生物の不思議について調べる。 ・浜下り（食文化・自然体験） ・貝殻や兵糧物（造形） ・グラスボート体験 ・貝殻や漂流物を使って制作をする。 ・海岸のクリーン作戦 清掃センターの見学やインタビューで、島の環境について学ぶ。 ※年間を通して行う。	17	目的に応じて分かりやすくまとめ、表現することができる。（技能）	自分の興味・関心、体験や今までの課題をもとにして、課題を見つけることができる。（課題設定）	様々な体験を通して、今までの自分の考えや行動を振り返り、海と島とわたしたちについて、言語でまとめたり表現したりしている。（自己理解） ゲストティーチャーから主体的に学び、友達と協力して調理実習や制作をすることができる。（主体性・協働性）	イメージマップ KJ 法 インタビュー	B&G 池田さん 池田かなさん 鹿児島水族館 シーマンズビーチ川口 与論島観光協会 JA 女性部 原田さん（風来坊さん） 役場環境課
2	「海からのおくりもの」★海 ・東十条小学校と茶花小学校との交流の歴史やお互いの学校の特徴やよさを学ぶ。 ※12 月の交流に合わせ、7～12 月に行う。	4	目的に応じて分かりやすくまとめ、表現することができる。（技能）	自分の興味・関心、体験や今までの課題をもとにして、課題を見つけることができる。（課題設定）		インタビュー	東十条小学校教室 5・6 年生

【子どもたちの意識及び活動の流れ】

海に行く→何が出来るか→海からの贈り物で何か作りたい→お土産やさんの写真を見せる→どんな商品を作れそうか調べる→もう1度海に行く→
今度は商品作りのために必要なものを拾う（何か作ろうという意識でもう一度海と出会わせる）→高齢者・商店街の方に島への思いを聞く→
商品を売って資金を作る→ポスター作り→活動の発表

ユネスタイム 3 時間 ※郷土教育の項に記載。

4年生 身近な自然環境と島の人々、姉妹校による他地域とのつながり 「よろんから世界へ」 ★海洋教育 2 1 時間 ※R 3 までは3年生で学習。

	小単元（学習活動）	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
1	「海からのおくりもの」★海 ユネスコと交流のある地域を知ろう ・ギリシャ	2	島内には、ミコノス島との姉妹都市にも関わる施設が幾つもあり、他国ともつながりあることを理解する。（知識）	他国と与論（日本）の相違点や共通点を見つけることができる。（整理・分析）	関心をもった課題に進んで取り組み、追求しようとする。（主体性）		ミコノス通り ミコノス島の写真（町立図書館）
2	鹿児島県と深い関係のある国々や地域について調べよう ・学校 ・遊び ・祭り、行事、風習 ・自然 ・食事 ・住居 ・服装等	8	インターネットを活用して、調べたい国の文化や生活の様子など、情報収集の仕方を身につけている。（技能）	姉妹都市や友好都市を中心に他国と与論（日本）の相違点や共通点、また他国の特徴を見つけることができる。（整理・分析）	関心をもった課題に進んで取り組み、追求しようとする。（主体性）	インターネット 図書 クラゲチャート	
3	ガイドブック（観光案内）を作ろう ・図や写真を使って視覚的に作る。 ・見出し、割り付けを工夫する。	9	情報を整理・分類して探求の過程に応じたまとめ方を身につけている。（技能）	姉妹都市や友好都市を中心に他国と与論（日本）の相違点や共通点を見つけることができる。（整理・分析） 多様な情報から、特徴を見つける。（整理・分析）	関心をもった課題に進んで取り組み、追求しようとする。（主体性）		A L T や海外で生活していた方の招聘 図書 インターネット ガイド（川畑こす枝さん）
4	ガイドブックを交換しよう ・交換する ・伝え合う ・感想を書く	2	世界には様々な国があり、異なる文化や生活があることを理解する。（理解）	学習を振り返り、今後の学習や生活に生かそうとする。（まとめ・表現）	自己の生き方を考え、夢や希望をもって生きようとする。（将来展望・社会参画）		

※社会科と教科横断的に進める。

4年生 地域の農業と生産者 「与論とわたしたち～特産物から～」 ★海洋教育 1 8 時間

	小単元（学習活動）	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
1	サトウキビについて知ろう	2			わからないことや疑問に思うことを自分から進んで解決しようとしている。		・川畑さん
2	サトウキビのお世話をしよう	6	サトウキビの正しい世話のしかたを理解し、実践することができる。		クラスの一員として友だちと協力しながら、サトウキビの世話をすることができる。		・学級 P T A（サトウキビ担当の保護者）
3	・サトウキビを刈って、黒糖作りに挑戦しよう	1 0		学習を振り返って、背かを活かしたり今後の課題を考えたりすることができる。	クラスの一員として友だちと協力しながら、サトウキビの世話をすることができる。また、学んだことを生活に生かそうとしている。		・学級 P T A（サトウキビ担当の保護者） ・川畑さん

5 年生 身近な自然環境とそこに起きている環境問題「ユンヌの海とわたしたち」★海洋教育 5 1 時間

	小単元（学習活動）	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考	
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等			
1	与論の海の今を知ろう。～課題設定～ ・海探検をしよう（3） ・グラスボート体験（※休日） ・G T から学ぼう（2） （1）漂着ゴミについて （2）サンゴについて （3）養殖について ・海と環境に関する情報収集・施設見学（3） ・課題設定（2）	10	解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。	自分の興味・関心をもとに、テーマに沿った学習課題をつくることができる。	わからないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。	ブレインライティング クラゲチャート	・B & G 池田さん、南海荘有村さん（バス手配） ・池田 かなさん ・池田 りょうすけさん ・海謝美（うんじゃみ） ・風来坊さん ・鹿児島水族館 柏木さん	
2	与論の海を守ろう～アイデアコンテスト～ ・海と環境に関する情報収集・夏休みの自由研究 ・海や自然環境を守るためのアイデアの整理、比較、分析（3）	3		課題解決のために必要な情報を集めることができる。また、集めたものを蓄積することができる。	わからないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。	座標軸（4視点）	・池田 りょうすけさん	
3	与論の海を守ろう～体験活動を通して～ ・サンゴを増やそうプロジェクト！（5） ・環境保全PR大作戦～看板製作班・ポスター制作班～（14） ・環境に優しい洗剤づくり（6）	25	与論の海を守ろう～教育活動全体を通して ・宿泊学習におけるフー・ド・ロスへの取組 ・街ゴミ拾い ・海ゴミ拾い ・家庭での実践	解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。 情報収集の手段を選択することができる。	事象を比較したり関連づけたりして課題解決に向けて考えることができる。 多様な情報にある特徴を見つけることができる。	分担された自分の役割を果たすことができる。	クラゲチャート ボックスチャート ウェビングマップ	・鹿児島大学水産学部教授 ・与論町漁業協同組合 ・役場環境課 ・池田 りょうすけさん
4	学んだことを発信し、学びを振り返ろう ・情報を整理をしよう。（2） ・パンフレットを実際に作ろう。（5） ・プレゼンテーションをしよう。（4） ・活動全体の振り返りをしよう。（2）	13		集めた情報の中から必要なものを選び出し、整理して分かりやすくまとめることができる。	学習活動で学んだことや身につけたことなどを、これからの学習や生活に生かしていこうとしている。 相手に自分の考えや意見を意欲的に伝えようとしている。	クラゲチャート ピラミッドチャート	・役場商工観光課 山さん	

5 年生 地域の伝統や文化「与論とわたしたち～伝統文化から～」★海洋教育 8 時間

	小単元（学習活動）	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
1	13 祝いつてなんだろう	5	自分の生い立ちを振り返ったり、これまで育ててくれた周囲の人への支えに気づいたりすることができる。	学習前の自分と学習後の自分を比べて、自分の成長の様子に気づくことができる。		スクラップシート	・学級 P T A（13 祝い担当の保護者）
2	奉納相撲に参加しよう	3	地域に根差す行事を体験することで、自分のルーツとなる文化や教えに気づくことができる。	学習前と学習後で、伝統文化にやそれに携わる人々への見方や理解が変化していることに気づける。	相撲や十五夜踊りに興味持ったり、進んで参加や鑑賞・応援したりできる。	クラゲチャート	

ユンヌタイム 3 時間 ※郷土教育の項に記載。

6 年生 **町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織**「ヨロンのタカラ探し！！」★海洋教育 46 時間

学期	小単元（学習活動）	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
1	修学旅行の計画	8	課題を解決するための調べ方（目的・対象・方法など）が分かる。			KJ法、イメージマップ、座標軸	
2	与論と沖縄の違いをまとめよう	5	与論と沖縄の位置関係（社） 与論と沖縄との文化交流（与論と沖縄との関係を学ぶ学習指導案）		わからないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。	ブレインストーミング	
3	課題設定・計画を立てる（ヨロンのタカラ探し）	3		自分の興味・関心をもとに、テーマに沿った学習課題をつくることができる。		イメージマップ	
4	テーマに沿って活動する	12	自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合うことができる。（「私は」の意識）			ウェビングマップ	※観光協会（町岡さん）のゲストティーチャー依頼
5	中間発表会と今後の計画を立てる	3	相手の考えと自分の考えを比べながら話を聞き、相手の話に反応することができる。	多様な角度から俯瞰として捉え、発表に向けた課題を見つけ、改善していくことができる。		クラゲチャート	※シマノマ（原田理恵子さん）のゲストティーチャーの依頼
6	発信の準備をする（2 学期 11、3 学期 4）	9	情報機器や写真などの効果的な活用（情） 意見文の書き方（国）	発表の仕方を考えながら、必要な情報を集めることができる。		クラゲチャート	※冬季休業中前からライオンズクラブ（川畑充男さん）とシマノマ（原田理恵子さん）との打ち合わせ 2、3 回程度
7	成果の発表会をする	6		発表の仕方を工夫し、掲示用の資料を効果的に使って自分の考えを伝えることができる。	進んで社会に参画しようとし、与論の活性化のためのアイデアを発表することができる。	PowerPoint グーグルスライドでの発表	

6 年生 **地域の伝統や文化**「与論とわたしたち～伝統文化から～」★海洋教育 3 時間

	小単元（学習活動）	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
1	奉納相撲に参加しよう	3	地域に根差す行事を体験することで、自分のルーツとなる文化や教養に気づくことができる。	学習前と学習後で、伝統文化にやそれに携わる人々への見方や理解が変化していることに気づける。	相撲や十五夜踊りに興味持ったり、進んで参加や鑑賞・応援したりできる。	クラゲチャート	

お世話になった方々への感謝と自己の将来「卒業に向けて」10 時間

ユネスタイム 3 時間 ※郷土教育の項に記載。

(例)
「島っこアイデアコンテスト」での発信を目的に、児童がもった課題ごとにチームを編成し、1 年間にわたって探究的な学習を行った。 6 チーム ① 映像制作チーム 与論島の海に着目し、子供目線での映像制作を行う。そして、それらを SNS で発信することにより観光 UP を図るアイデアを考えた。 ② 環境保全チーム 島内の特産物の生産量を上げるために、環境保全に着目した。その視点で環境を守るアイデアを考えた。 ③ 伝統・エコチーム ユネスフトゥバとエコを融合させた商品開発をとおして、与論の魅力をアピールするアイデアを考えた。 ④ 特産品開発チーム 島内の特産物をつかった特産品を開発することで、与論の魅力を伝えるというアイデアを考えた。 ⑤ 隠れスポット発信チーム 島内の隠れスポットを洗い出し、新たな魅力を創出し観光 UP を図るアイデアを考えた。 ⑥ 海図鑑開発チーム 与論の海洋生物に着目した本を出版することとおして、与論の魅力をアピールするアイデアを考えた。そのために、魚履き体験や競り体験を行い、魅力のアピールにつなげた。

3年生 ゆんぬ学

★ユンヌ大発見 ～身近な人・自然からユンヌを学ぼう～

「ユンヌのじまん」(30時間)

月	学習計画	時間	育成を目指す資質・能力			準備物・人材等
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等	
4	○ユンヌのいいところはどこ？ (文化・生き物・海・食べ物・歴史・施設・人・環境等の良さを引き出す)	2	○身近な自然において、生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。 (知識)	○体験活動から課題を見つけることができる。 (課題の設定)	○自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする。(主体性)	社会科「市の様子」との関わり 魚図鑑 生き物図鑑 与論観光マップ
5	○じまんをさがしに自然に出かけよう (昆虫・鳥・植物探し) ・計画、探検、まとめる	3	○身近な自然において、生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。 (知識)	○教師の支援を受けて、手段を選択し、適切に情報を収集する。(情報の収集)	○自他の良さを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする。(協働性)	カメラ 虫かご 虫とり網 生き物図鑑 植物図鑑 昆虫図鑑
6・7	○じまんをさがしに海に出かけよう (生き物・貝殻採集) ・計画、探検、まとめる	7	○自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定でないことを理解する。 (知識)	○教師の支援を受けて、手段を選択し、適切に情報を収集する。(情報の収集)	○自他の良さを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする。 (協働性)	カメラ パケツ 魚とり網 魚図鑑 バスの手配
9～12	○じまんをさがしに島をめぐる (施設・観光地探検) ・計画、探検、まとめる	8	○自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定でないことを理解する。 (知識)	○施設担当者の話やパンフレットを参考にしながら、情報を収集しようとしている。 (情報の収集)	○自己の生き方やものとの考え方を考え、よりよく生きようとする。(将来展望)	カメラ メモ(しおり) バスの手配 サザンクロスセンター 赤崎鍾乳洞 赤崎海岸
1～3	○ユンヌのじまんを見つけて、『ユンヌじまん大会』をしよう(準備も含む) ・新聞、ペープサート、絵本、図鑑、クイズ、劇、マップなど	10	○情報を整理・分類して探求の過程に応じた技能を身につけている。(技能)	○調べたことを分かりやすくまとめ、表現する。(まとめ・表現)	○探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。(他者理解)	1年生を招待 先生方を招待 授業参観で

「ユンヌの名人さん、大集合」(27時間)

月	小単元(学習活動)	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
5	○ユンヌには、どんな名人さんがいるかな？(ユンヌフトゥバ、郷土料理、伝統芸能、きび作り等、身近にいる様々な名人を引き出す。)	1	地域には様々な特技をもった方がいることや昔から変わらぬものがあることを理解する。(知識)	必要な情報を収集し、蓄積する。(情報の収集)	課題解決に向けて、探究活動に取り組もうとしている。 (主体性)	ウェビングマップ	与論観光マップ 十五夜踊りの写真 与論今昔DVD
6・7・9	○ユンヌの文化・伝統行事を調べよう ・郷土料理・三線 ・与論の歌・ユンヌフトゥバ ・十五夜祭・奉納相撲など	8	自分が興味・関心をもった課題について、様々な調べ方の中から選択する技能を身につけている。 (技能)	情報収集の手段を選択する。(情報の収集)	興味をもったことを進んで調べようとする。(主体性・協働性) 探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、夢や希望などをもとうとする。(将来展望)	カメラインタビューインターネット 図書	(方言)原田誠一郎さん (エイサー)中山久代先生 (伝統料理)食生活改善推進員
11・12	○ユンヌの伝統料理を作ってみよう ・計画、体験、まとめる	7	名人の指導をよく聞いて、進んで体験活動する。				食生活改善推進員の皆さん (伝統料理)
1・2	○ユンヌの伝統文化を体験しよう (三線またはエイサー) ○発表会を開こう (三線、エイサーのどちらか) ・招待状作り ・リハーサル	11	名人の指導をよく聞いて、進んで体験活動する。 体験活動を通して学んだ技能を身につけている。(技能)				中山久代先生 (エイサー) 先生方を招待 授業参観で

「ユンヌフトゥバ学習」(3時間)

月	小単元(学習活動)	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
6 11 2	ユンヌフトゥバを学ぼう (学期1回ずつ)	3	ユンヌフトゥバで簡単なあいさつや自己紹介をすることができる。(技能)		方言を大事にしていこうとする。(将来展望・社会参画)		原田誠一郎さん (方言)

「インターネットを使おう」(5時間) ・「自己表現しよう」(5時間)

月	小単元(学習活動)	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
4・5・6	○インターネットを使おう ・使い方を知る ・テーマを決めて調べる ・まとめる、発表	5	インターネットを使ういろいろな情報を入手できるとに気づく。(知識)	インターネットで必要な情報を収集し、蓄積する。(情報の収集)	興味をもったことを進んで調べようとする。(主体性)	キューブキッズ	
10・11	○自己表現をしよう (音楽発表会に向けて) ・合唱、合奏の練習	5		学習したことを発表する手段を選択し、見ている人に分かりやすく表現する。(表現)	自他の良さを生かしながら協力して、学習したことを表現しようとする。(協同性)		

3年生★ユンヌ大発見 ～身近な人・自然からユンヌを学ぼう～

「ユンヌのじまん(30時間)」 「ユンヌの名人さん、大集合(27時間)」 他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同集団体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会	校内水泳大会 終業式	始業式	運動会	ユンヌフトゥバ学習 那間っ子フェア 校内カルタ大会	終業式 校内人権週間人権集会	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習	卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育の コンセプトとの 関連	○ユンヌのいいところはどこ? 【親・知】	○じまんをさがしに自然に出かけよう③【親・知】	○じまんをさがしに海に出かけよう⑦【親・知】		○じまんをさがしに島をめぐる⑧【親・知】				○ユンヌのじまんを見つけて、『ユンヌじまん大会』をしよう⑩		
	○ユンヌにはどんな名人がいるの? ②		○ユンヌの文化・伝統行事を調べよう⑧	○ユンヌフトゥバ学習③(6・11・2月)		○ユンヌの伝統料理を作ってみよう⑧			○ユンヌの伝統文化を体験しよう⑩		
他教科との 関連		・市の様子(社) ・チョウを育てよう(理)	・全体と中心(国) ・引用するとき(国) ・まいごのかぎ(国) ・ふろしき(道)	・農家の仕事(社) ・表とグラフ(算) ・ごめんね、サルビアさん(道)		・科学読み物での調べ方(国) ・「おもてなし」ってなあに(道)					・しりょうの活用(算)

※ 海洋教育のコンセプト

- 海に親しむ【親】 …… 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて、海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。
- 海を知る【知】 …… 海の自然や資源、海をとりまく人や社会との深いかわりについて関心をもち、進んで調べようとする児童・生徒を育てる。
- 海を守る【守】 …… 海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。
- 海を利用する【利】 …… 水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※ 島だちの力と非認知能力(海洋教育科(ゆんぬ学)全体計画参照)

- 島立ち …… 与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、ねばり強くしなやかに探究する心を育む。【主体、継続、関係、感動】
- 島発ち …… 与論島の強みや問題点について理解し、それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。【情報収集・判断、対話】
- 島達ち …… 与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし、仮説を立て、自分にできることを実践する。【問題解決、持続的利用】

4年生 ゆんぬ学

★知ろう ユンヌの海の魅力 ～地域を支える自然にふれて～

「与論島と海と私たち」(30時間)

月	学習計画	時間	育成を目指す資質・能力			準備物・人材等
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等	
4 ～ 7 ・ 9	○海や生物の不思議について調べよう ・海や生物の不思議について疑問等を引き出す ・浜下り(食文化・自然体験) ・潮だまりにいる生物の観察 ○マリンスポーツを楽しもう	15	○与論の自然(海)について調べ、身近な自然素材を活かした物づくり等を通して自然環境について知ることができる。(知識)	○自分の興味・関心、体験や今までの課題をもとにして、課題を見つけることができる。(課題設定) ○調べたことを分かりやすくまとめ、表現する。(まとめ・表現)	○ゲストティーチャーから主体的に学び、友達と協力して調理実習や制作をすることができる。(主体性・協働性)	B&G 鹿児島水族館 与論島観光協会 JA 女性部 原田誠一郎さん
9 ～ 11	○貝殻や漂着物を集めよう(グラスボート体験など) ○貝殻や漂着物を使って製作をしよう。	8	○目的に応じて分かりやすくまとめ、表現することができる。(技能)		○様々な体験を通して、今までの自分の考えや行動を振り返り、海と島とわたしたちについて、言語でまとめたり表現したりしている。(自己理解)	海洋教育プログラム活用 パスの手配 B&G シーマンスビーチ川口さん 池田香菜さん パスの手配
2 ～ 3	○調べたことを発表しよう。 ・プレゼンテーションソフト ・壁新聞	7				授業参観

「調べよう 作ろう ユンヌの作物」(30時間)

月	小单元(学習活動)	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
4 ～ 6	○育てよう作ろう ユンヌの作物 ・故郷の産業～サトウキビ栽培 ※4年に一度はキビの植え替え (次回は令和7年度末～8年度) ・サトウキビについて知っていることや、課題を話し合う。 ・サトウキビについて調べる。 ・サトウキビの世話	8	学校農園を利用して、サトウキビを育て、収穫・加工することにより郷土の産業や農業について知ることができる。(知識)	与論島の産業やサトウキビの歴史を知り、自分たちに行きつけ、学習計画を立てることができる。(課題設定)	ゲストティーチャーから主体的に学び、友達と協力してキビ畑の手入れをすることができる。(主体性・協働性)	インタビュー カメラ	サトウキビ農家の保護者
6 ～ 12	○育てよう作ろう ユンヌの作物 ・サトウキビについて調べる。 ・サトウキビの世話(草取りと肥料)	6	学校農園を利用して、サトウキビを育て、収穫・加工することにより郷土の産業や農業について知ることができる。(知識)	サトウキビについて調べたり、育てたり、収穫・加工したりの活動を通じて、与論島の産業について自分なりの考えを持つことができる。(整理・分析)	生命や自然の大切さを感じ、食に対して感謝の気持ちを深めている。(自己理解)	インタビュー カメラ	サトウキビ農家の保護者
1	○育てよう作ろう ユンヌの作物 ・黒糖作りの手順を調べよう ・キビ刈り 【与論島製糖(株)集荷本部】	5	学校農園を利用して、サトウキビを育て、収穫・加工することにより郷土の産業や農業について知ることができる。(知識) 目的に応じて分かりやすくまとめ、表現することができる。(技能)	サトウキビについて調べたり、育てたり、収穫・加工したりの活動を通じて、与論島の産業について自分なりの考えを持つことができる。(整理・分析)	生命や自然の大切さを感じ、食に対して感謝の気持ちを深めている。(自己理解) 自分の発表に自信をもち、考えたことや伝えたいことを明瞭に話すことができる。(まとめ・表現)	インタビュー カメラ 新聞づくり	サトウキビ農家の保護者
2	○黒糖作り 【与論民俗村】	8					産業振興課 与論島製糖(株)集荷本部
3	・学びのまとめ ・学習発表会・振り返り ・次年度の畑の準備(耕し・肥料) ※4年に一度はキビの植え替え (次回は令和7年度末～8年度)	3					与論民俗村

★ 3学期にユンヌ検定を受けるが、社会科やゆんぬ学の授業の最初で復習したり検定を実施したりする。

「自己表現しよう(音楽発表会練習)」(5時間)

月	小単元(学習活動)	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
10・11	・音楽発表会に向けて ・合唱、合奏の練習	5	目的に応じて分かりやすくまとめ、表現することができる。(技能)	自分の興味・関心、体験や今までの課題をもとにして、課題を見つけることができる。(課題設定)	友達と協力して学習発表会の準備や制作をすることができる。(主体性・協働性)	インタビュー カメラ	

「ユンヌフトゥバ学習」(3時間)

「与論と沖縄の関係を学ぶ」(2時間)

6・11・2	・あいさつをしよう ・自己紹介をしよう ・家族の紹介をしよう	3	目的に応じて表現することができる。(技能)	身の回りの事柄をユンヌフトゥバで話すことに興味をもち、課題を見つけることができる。(課題設定)	自分の活動を振り返り、生活に生かそうとしている。(主体性)		原田誠一郎さん
10・11	・与論の周りの島々について調べよう ・調べたことを発表しよう	2	目的に応じて必要な情報を集め、分かりやすくまとめ、表現することができる。(技能)	自分の現状(周りの島を知らない)から課題を見つけることができる。(課題設定)	友達と協力してグループ発表の準備をすることができる。(主体性・協働性)	タブレット	学習指導案参照(ファイル)

4年生 ★知ろう ユンヌの海の魅力 ～地域を支える自然にふれて～

「与論島と海と私たち」(30時間) 「調べよう 作ろう ユンヌの作物」(30時間) 他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同団体 体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会	校内水泳大会 終業式	始業式	運動会	ユンヌフトゥバ学習 那間っ子フェア 校内カルタ大会	終業式 校内人権週間人権集会	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習	卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育の コンセプトとの 関連	○海や生物の不思議について調べよう⑩ 【親・知】			○マリンスポーツを楽しもう⑤【親・知】		○貝殻や漂着物を集めよう⑤【親・知】			○調べたことを発表しよう。⑥ 【知・守】		
	○サトウキビについて調べよう⑤		○サトウキビの世話⑪					○貝殻や漂着物を使って製作しよう④ 【親・知】		○黒糖作りを知ろう③ ○黒糖作り⑧ ○学びのまとめ③	
	○ユンヌフトゥバ学習③(6・11・2月)										
他教科との 関連	・考えと例(国) ・水はどこから(社) ・小さな草たちにはく手を(道)	・要約するとき(国) ・ごみの処理と利用(社) ・雨水のゆくと地面のようす(理)	・自然のなかの水のすがた(理)	・地震からくらしを守る(社) ・しりょうの整理(算)	・百科事典の使い方(国) ・聞かせて、君の声を(道)	・お父さんのじまん(道)	・プラタナスの木(国) ・浮世絵(道)	・ウナギの謎を追って(国)			・しりょうの活用(算)

※ 海洋教育のコンセプト

- 海に親しむ【親】 …… 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて、海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。
- 海を知る【知】 …… 海の自然や資源、海をとりまく人や社会との深いかわりについて関心をもち、進んで調べようとする児童・生徒を育てる。
- 海を守る【守】 …… 海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。
- 海を利用する【利】 …… 水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※ 島だちの力と非認知能力(海洋教育科(ゆんぬ学)全体計画参照)

- 島立ち …… 与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、ねばり強くしなやかに探究する心を育む。【主体、継続、関係、感動】
- 島発ち …… 与論島の強みや問題点について理解し、それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。【情報収集・判断、対話】
- 島建ち …… 与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見だし、仮説を立て、自分にできることを実践する。【問題解決、持続的利用】

★ユンヌの海と環境 ～仲間と共に学び合おう～

ユンヌの海と環境（38時間）

月	学習計画	時間	育成を目指す資質・能力			準備物・人材等
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等	
4 ～ 6	○与論の海の今を知ろう～課題設定～ ・海探検をしよう ・GTから学ぼう 1 漂着ゴミについて 2 サングについて 3 養殖について 4 海と環境について ・課題設定	13	○解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。	○自分の興味・関心をもとに、テーマに沿った学習課題をつくることができる。	○わからないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。	・B&G池田さん、南海荘有村さん、池田香菜さん、池田龍介さん、海謝美(うんじやみ)、原田誠一郎さん、鹿児島水族館 ・海洋教育プログラム活用
7 ～ 11	○与論の海を守ろう～アイデアコンテスト～ ・海と環境に関する情報収集(夏休みの自由研究) ・海や自然環境を守るためのアイデアの整理、比較、分析 ○与論と沖縄の関係を学ぶ※ 別紙計画 与論の海を守ろう ～体験活動を通して～ ・サングを増やそうプロジェクト! ・環境保全PR大作戦～看板製作班・ポスター制作班～	7 6	○解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。 ○情報収集の手段を選択することができる。	○課題解決のために必要な情報を集めることができる。 ○事象を比較したり関連づけたりして課題解決に向けて考えることができる。多様な情報にある特徴を見つけることができる。	○わからないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。 ○分担された自分の役割を果たすことができる。	・池田龍介さん ・鹿児島大学水産学部教授 ・与論町漁業協同組合 ・役場環境課 ・池田龍介さん ・海洋教育プログラム活用
11 ～ 3	○学んだことを発信し、学びを振り返ろう ・海洋教育フェアに向けての準備 1 月海洋教育フェアに参加 ・情報を整理をしよう。 ・プレゼンテーションをしよう。 ・活動全体の振り返りをしよう。	12		○集めた情報の中から必要なものを選び出し、整理して分かりやすくまとめることができる。	○学習活動で学んだことや身につけたことなどを、これからの学習や生活に生かしていこうとしている。 ○相手に自分の考えや意見を意欲的に伝えようとしている。	・役場商工観光課

「仲間と共に学び合おう」(21時間)

	小単元(学習活動)	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
4	○集団体験学習について話し合おう	2	集団体験学習に関する情報を集めることができる。	よりよい集団体験学習にするために大切なことについて考えることができる。			
5	○集団体験学習 ※集団体験学習におけるフードロスの取組	12			分担された自分の役割を果たすことができる。 友だちと協力しながら、活動することができる。		B&G
6	○集団体験学習を振り返ろう	1	体験したことを新聞等にまとめることができる	学習を振り返って、今後の生活にどのように生かすか考えることができる。			
12 ～ 2	○これまでの自分を振り返ろう ・13祝に向けて	6		自分の生い立ちを振り返ったり、これまで育ててくれた周囲の人への支えに気づいたりすることができる。	学習前の自分と学習後の自分を比べて、自分の成長の様子に気付くことができる。	夢カード	・学級PTA(13 祝い担当の保護者)

「自己表現しよう(海洋教育フェア)」(3時間)

1	○海洋教育フェア(前日リハーサル含む)	3	目的に応じて分かりやすくまとめ、表現することができる。(技能)	自分の興味・関心、体験や今までの課題をもとにして、課題を見つけることができる。(課題設定)	友達と協力して学習発表会の準備や制作をすることができる。(主体性・協働性)	インタビューカメラ	
---	---------------------	---	---------------------------------	---	---------------------------------------	-----------	--

「ユンヌフットゥバ学習」(3時間) 「与論と沖縄の関係を学ぶ」(2時間)

6 11 2	・あいさつをしよう ・自己紹介をしよう ・家族の紹介をしよう	3	目的に応じて表現することができる。(技能)	身の回りの事柄をユンヌフットゥバで話すことに興味をもち、課題を見つけることができる。(課題設定)	自分の活動を振り返り、生活に生かそうとしている。(主体性)		原田誠一郎さん
10 ・ 11	・与論島と周りの島々の産業について調べよう ・調べたことを発表しよう	2	目的に応じて必要な情報を集め、分かりやすくまとめ、表現することができる。(技能)	自分の現状(島の産業について知らない)から課題を見つけることができる。(課題設定)	友達と協力してグループ発表の準備をすることができる。(主体性・協働性)	タブレット	学習指導案参照(ファイル)

「与論町相撲大会(R7 年度12月)」(3時間)

5年生 ★ユンヌの海と環境 ～仲間と共に学び合おう～

ユンヌの海と環境(38時間) 「仲間と共に学び合おう」(21時間) 他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同グループ体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフットバ学習 遠泳大会	校内水泳大会 終業式	始業式	運動会	ユンヌフットバ学習 仲間っ子フェア 校内カルタ大会	終業式 校内人権週間人権集会 相撲大会	始業式 校内持久走大会 海洋教育フェア	ユンヌフットバ学習 十三祝い	卒業式・修了式
ゆんぬ学海洋教育のコンセプトとの関連	○与論の海の今を知らう～課題設定～③【知・知】			○与論の海を守らう～情報収集、整理・分析～④【知・守】			○学んだことを発信し、学びを振り返ろう。～まとめ・表現～⑪【守・利】				
	○集団体験学習⑤ 計画・実施・振り返り			○ユンヌフットバ学習③(6・11・2月)			○これまでの自分を振り返ろう⑥(13祝に向けて)				
他教科との関連	・世界の中の国土(社)	・原因と結果(国)	・目的に応じて引用するとき(国) ・ひとふみ十年(道) ・美しい夢～ゆめぴりか～(道)		・水産業のさかんな地域(社) ・和太鼓調べ(道)		・統計資料の読み方(国) ・グラフや表を用いて書こう(国) ・流れる水のはたらき(理)	○相撲大会③【主体、継続、関係、感動】		・自然災害を防ぐ(社)	

※ 海洋教育のコンセプト

- 海に親しむ【観】 …… 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて、海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。
- 海を知る【知】 …… 海の自然や資源、海をとりまく人や社会との深いかわりについて関心をもち、進んで調べようとする児童・生徒を育てる。
- 海を守る【守】 …… 海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。
- 海を利用する【利】 …… 水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※ 島だちの力と非認知能力(海洋教育科(ゆんぬ学)全体計画参照)

- 島立ち …… 与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、ねばり強くしなやかに探究する心を育む。【主体、継続、関係、感動】
- 島発ち …… 与論島の強みや問題点について理解し、それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。 【情報収集・判断、対話】
- 島達ち …… 与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし、仮説を立て、自分にできることを実践する。 【問題解決、持続的利用】

6年生 ゆんぬ学

★ユンヌの「魅力」発信 ～ユンヌの美しい景観を残すために～

ユンヌの「魅力」発信(38時間)

月	学習計画	時間	育成を目指す資質・能力			準備物・人材等
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等	
4 ・ 5	○沖縄についての情報を集め、修学旅行の計画を立てよう ・観光地について・歴史について ・食・文化について・自然について	4	○課題を解決するための調べ方(目的・対象・方法など)が分かる。		○わからないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。	
6 ・ 7	○「景観」について知らう～課題設定～ ・景観とは? ・与論・那間の魅力とは? (1) 歴史について (2) 自然について (3) 生き物について (4) 食・文化について(5) 産業について ・課題設定	5		○自分の興味・関心をもとに、テーマに沿った学習課題をつくることができる。	○景観について理解を深め、那間や与論島の魅力について考えようとする。	・役場商工観光課 ・観光協会 ・池田香菜さん ・池田龍介さん ・海謝美(うんじやみ) ・海洋教育プログラム活用
7 ・ 9 ・ 12	○それぞれの設定した課題に沿って活動する(実地調査・写真撮影) ・情報の収集、整理をする ・調べたことをプレゼンテーションにまとめる。 (仲間っ子フェア) ・魅力が伝わる写真を撮影する。	20	○自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合うことができる。 ○カメラ機能の使い方(逆光や構図等)が分かる。	○課題解決のために必要な情報を集めることができる。また、集めたものを蓄積することができる。 ○魅力を効果的に伝える写真撮影の仕方考えることができる。	○分からないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。	・田中国重先生 ・本園秀幸さん ・原田倫さん ・田畑豊範さん ・役場環境課
2 ・ 3	○発信の準備をしよう(景観を残すためにできることを考えよう) ・発表に向けての練習をする ○成果の発表をしよう	9	○情報機器や写真などの効果的な活用ができる ○意見文の書き方(国語)	○発表の仕方を工夫し、掲示用の資料を効果的に使って自分の考えを伝えることができる。	○進んで社会に参画しようとし、与論の活性化のためのアイデアを発表することができる。	発表の場や発信の仕方の工夫 ・授業参観・ポスター ・パンフレット・映像

「はばたけユンヌワラビンチャー ～卒業に向けて～」(11時間)

1	○中学校体験入学	1			○わからないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。		
1 ・ 2 ・ 3	○卒業文集・タイムカプセルの作成計画及び分担任を決める ○計画に沿って活動する ○卒業式練習(6年のみ) ○出来上がった文集読み合い、感想を伝え合う。	10	それまでの卒業文集の資料を参考に(知識) 先生方や保護者への原稿依頼文の書き方(技能)	出来上がった期日を決めて、そこから逆算しながら活動の計画を立てることができる。 (判断力) 表現や構成の良さ、文章を通して伝わってくる思いなど自由に発表することができる (表現力)	お世話になった先生方や保護者に対して、感謝の気持ちをもって作成しようとしている。(主体性)		※タイムカプセル用の衣装ケースの準備

「ユンヌフトゥバ学習」(3時間)

6 11 2	あいさつをしよう 自己紹介をしよう 家族の紹介をしよう	3	目的に応じて表現することができる。(技能)	身の回りの事柄をユンヌフトゥバで話すことに興味を持ち、課題を見つけることができる。 (課題設定)	自分の活動を振り返り、生活に生かそうとしている。(主体性)		原田誠一郎さん
--------------	-----------------------------------	---	-----------------------	---	-------------------------------	--	---------

「修学旅行」(10時間)

「与論と沖縄の関係を学ぶ」(5時間)

4 ・ 5 ・ 6	・修学旅行(5月) ○与論と沖縄の違いをまとめよう ※ 別紙計画を参照 ・修学旅行を通して調べてきたことや、体験してきたことをもとに、歴史や文化、芸能等について与論と比較する	15	目的に応じて必要な情報を集め、分りやすくまとめ、表現することができる。 (技能) 与論と沖縄の位置関係を理解する。(社会) 与論と沖縄との文化交流を学ぶ。(与論と沖縄との関係の学習指導案)	自分の現状(島に伝わる文化・芸能について知らない)から課題を見つけることができる。(課題設定)	友達と協力してグループ発表の準備をすることができる。(主体性・協働性)	タブレット	学習指導案参照 (ファイル)
-----------------------	--	----	---	---	-------------------------------------	-------	-------------------

「与論町相撲大会(R7年度12月)」(3時間)

★1学期にユンヌ検定を受けるが、社会科やゆんぬ学の授業の最初で復習したり検定を実施したりする。

6年生 ★ユンヌの「魅力」発信 ～ユンヌの美しい景観を残すために～

ユンヌの「魅力」発信(38時間) 「はばたけユンヌワラビンチャー ～卒業に向けて～」(11時間) 他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同集団体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会	校内水泳大会 終業式	始業式	運動会	ユンヌフトゥバ学習 那間っ子フェア 校内カルタ大会	終業式 校内人権週間 人権集会 相撲大会	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習 卒業式練習	卒業式 練習 卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育のコンセプトとの関連	○修学旅行の計画を立てよう・与論と沖縄の違い⑥【親・知】		○「景観」について知ろう ～課題設定～⑦【親・知】		○それぞれの設定した課題に沿って活動しよう(実地調査)～情報収集、整理・分析～⑧【知・守】			○発信の準備をしよう。景観を残すためにできることを考えよう⑨～まとめ・表現～【守・利】			
	○修学旅行⑩		○ユンヌフトゥバ学習③(6・11・2月)		○与論島と周りの島々の文化(芸能)について調べよう⑤		○相撲大会③【主体、継続、関係、感動】		○卒業に向けての取り組み(卒業文集作り・卒業式練習)⑭		
他教科との関連		・主張と事例(国)	・情報と情報をつなげて伝えるとき(国) ・ばくのお茶体験(道)	・生き物のくらしと環境(理) ・緑の戦士・ワングリ・マータイ(道)		・調べた情報の使い方(国) ・天下の名城をよみがえらせる～姫路城～(道)			・資料の整理(算) ・データの活用(算)	・地球に生きる(理)	・世界の未来と日本の役割(社)

※ 海洋教育のコンセプト

- 海に親しむ【親】 …… 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて、海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。
- 海を知る【知】 …… 海の自然や資源、海をとりまく人や社会との深いかわりについて関心をもち、進んで調べようとする児童・生徒を育てる。
- 海を守る【守】 …… 海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。
- 海を利用する【利】 …… 水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※ 島だちの力と非認知能力(海洋教育科(ゆんぬ学)全体計画参照)

- 島立ち …… 与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、ねばり強くしなやかに探究する心を育む。【主体、継続、関係、感動】
- 島発ち …… 与論島の強みや問題点について理解し、それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。【情報収集・判断、対話】
- 島建ち …… 与論島の強みや問題点から自分らの問いを見だし、仮説を立て、自分にてきることを実践する。【問題解決、持続的利用】

海 洋 教 育 科 学 習 指 導 案

1 年生 2 クラス： 計 53 名

指導者

教諭

末廣

講師

磯村・野口

地域協力者

22 名

1 題材名 トークフォークダンス

「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」とは

※トークフォークダンスとは：フォークダンスのように、どんどん相手を変えて対話をする方法。外・内と2重の円を作って座り、向かい合わせになった相手と対話をしたら、外側に座った人だけ左にずれていく。どんどん新しい人と会話していくので、たくさんの人とコミュニケーションとることができる方法。

2 本時の実際

(1) 目標

- ・「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」について地域の方と対話することを通し、自分の考えを伝え、他者の意見を聞き自身の考えを広げ深める。
- ・対話を通し、地域の現状への理解を深め、探究の「問い」へと繋げる興味・関心のある分野を見つける。

(2) 展開

	学習活動	時間	指導上の留意点
導 入	1 講師・参加者の紹介 2 学習課題の確認 学習課題 与論の良さと、課題って？	5 分 5 分	○ 授業に協力してもらい、地域協力者の自己紹介 ○ 地域の方が参加し対話する意義を理解させる。
展 開	3 トークフォークダンスの補足説明 4 トークフォークダンス実施 トークテーマ①「与論町の魅力・良さ」 (2 分×8 回) 休憩 5 トークフォークダンス実施 トークテーマ②「与論町の課題・問題」 (2 分×8 回)	5 分 16 分 8 分 16 分	○ 内円と外円でクラスを分ける。生徒の間には、地域の方を配置する。普段会話をしない相手との対話ができる環境設定をする。 ○ ワークシートは事前に生徒に配布し、テーマに対し自分の考えが記入できるようにする。 ○ 対話を通して感じたことや発見をワークシートに記入できるようにする。
終 末	6 まとめ 「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」とは？ 他者に伝えることで、自分の考えが明確になった。立場の違う人や普段話す機会の少ない人との対話を通し、新たな発見や再認識をした。	15 分	○ 生徒、地域協力者数名から対話を通して感じたこと、発見を発表してもらう。

(3) 評価

- ・「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」について地域の方との対話を通し、自分の考えを伝え、他者の意見を聞き自身の考えを広げ深めることができたか。
- ・対話を通し、地域の現状への理解を深め、探究の「問い」へと繋げる興味・関心のある分野を見つけることができたか。

海洋教育科学習指導案

2年生2クラス：計55名

指導者

教諭

永園

講師

磯村・野口

地域協力者

27名

1 題材名「アイデアを町に伝えよう」：インタビュー

「探究学習で考えたことを地域に伝えて、フィードバックをもらい学習を深化する。」

2 本時の実際

(1) 目標

- インタビュー：興味・関心のある人について知る
- ・必要な情報を聞き出したり、収集したりする。
 - ・多くの情報から取捨選択できるようにする。
 - ・関連情報にも目を向けて視野を広げる。
 - ・コミュニケーション能力や社会性を養う。

(2) 展開

	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 講師・参加者の紹介 2 インタビューの方法について説明 学習課題 インタビューを通して、興味関心ある分野を深掘りしよう。	5分 5分	○ 授業に協力してもらい、地域協力者の紹介 ○ 地域の方が参加し対話する意義を理解させる。
展開	3 インタビュー開始	30分	○ 1グループ：生徒と地域サポーター含め5名程度で実施する。 ○ 事前に生徒に「興味関心のある分野」に関するアンケートを実施。回答を参考にインタビュー対象者を設定する。 ○ インタビュー用ワークシートを事前に配布 ○ 対話を通して感じたことや発見をワークシートに記入できるようにする。
終末	6 まとめ 興味関心のある分野の方へのインタビューを通して、分野についての情報はもちろん「人となり」「雰囲気」「大切にしていること」などに触れる機会とした。また、「面白い、カッコいい、他の人に教えてあげたいと思った点」「その人のイメージや印象」など生徒一人一人が感じたことを記録し表現に繋げる。	5分	○ 生徒、地域協力者数名からインタビューを通して感じたこと、発見を発表してもらう。

(3) 評価

- ・インタビューを通し、興味関心のある分野について必要な情報を聞き出したり、収集することができたか。
- ・関連情報にも目を向けて視野を広げることができたか。
- ・インタビューを通して、初めて会う方とのコミュニケーションを楽しむことができたか。

総合的な探究の時間「探究シンポジウム」学習指導案

実施期日 令和7年4月18日(金)5・6校時

実施クラス 全校生徒(131名)

指導教室 与論高等学校 体育館

1 目的

課題研究をとおして行う探究活動を始めるにあたり、様々な領域で活動している地域住民及び大学スタッフとの討論から、生徒の知見を広げる。

2 計画

前半	探究活動の進め方 (15分) ～地域との繋がり方について～ フィールドワークに向けて (40分) ～最新の情報にアクセスする方法～ 鹿児島大学・価値創造ゼミ紹介(15分)
後半	ワールドカフェ×3回 20グループに分かれて、生徒の司会を立てて対話する ※テーマは下記参照

3 講師

20人(講話4名+ワールドカフェ16人)

4 授業内容

時間	活動		場所	備考
12:25	1・2年 集合	3年 「ゆんぬ」	体育館	全員体育館 講師の先生方から，話を聞く。
12:30	全体説明			
12:30～13:45(70)	1・2年 講師			
	休憩・移動			生徒ファシリテーターが司会進行，講師と本校教諭はサポート 地域サポーター・講師 1人，生徒 5～6 人構成で，20 グループで行う。 高校職員は様子を見て，生徒の割り振りなど。
13:55～14:05(10)	サイエンスキャンプの説明 ワールドカフェの説明		体育館	
14:05～14:25(20)	ワールドカフェ①			
14:30～14:50(20)	ワールドカフェ②			
14:55～15:15(20)	ワールドカフェ③			
教室にて感想等記入，片付け			いすは各自で片付け，シートは 1-1 を中心に片付ける	
15:30～	終礼		各教室	
15:20～15:30(20)	フィードバック		教育相談室	会場の片付けを同時進行で行う

ワールドカフェは、15分3回転する予定だが、当日の各グループの話し合いの様子を見て10分にする、2回転にするなど、進行は臨機応変に対応する。

5 出席者一覧

①事務局・説明

所属	役職等	氏名	担当領域
与論町海洋教育事務局	地域コーディネーター	田畑 香織	
東京大学大気海洋研究所	講師	平林 頌子	サイエンスキャンプ
鹿児島大学南九州・南西諸島域イノベーションセンター	センター長	藤枝 繁	価値創造ゼミ

②フィールドワーク講師

所属	氏名	担当領域
株式会社生態計画研究所	佐藤真人	フィールドワーク（調査・実験・文献）
NPO 海の再生ネットワークよろん	池田香菜	フィールドワーク（調査・実験・文献）
与論町教育委員会事務局 学務課	池田レミ	フィールドワーク（インタビュー・文献）
与論町海洋教育推進協議会 事務局	野口美佳	フィールドワーク（インタビュー・文献）

6 ワールドカフェ

①ワールドカフェ実施の目的

本ワールドカフェは、総合的な探究の時間の導入として、生徒一人ひとりが自分の想いや経験、価値観に気づき、探究を深めるための「問い」や「興味のタネ」を見つけることを目的としています。生徒同士だけでなく、地域サポーター（住民・行政職員・保護者など）も対話の参加者として関わることで、地域に根ざした学びの第一歩としての意味合いをより深めます。

②テーマ

1. 「誰かに“ありがとう”と言いたくなる与論の瞬間って？」
→ 日常の中の温かい関係や価値に気づくことで、「誰かのために何かしたい」気持ちが自然と育まれる。
2. 「“与論で育ってよかったな”と思うときって、どんなとき？」
→ 地域から受け取ってきたものに気づくことで、「返したい」という想いが芽生える。
3. 「未来に残したい“与論の良さ・風景”は？」
→ 景観・文化・暮らしの中にある価値を見つめ、守りたい気持ちや継承への意識を高める。
4. 「“もっとこうなったらいいのに”と思う与論の姿は？」
→ 想像から始まる地域への願いが、主体的なアクションの種になる。
5. 「与論で“自分にもできそう”と思えることってある？」
→ 自分の強みや関心と地域のニーズをつなげる出発点に。

総合的な探究の時間「校内報告会」指導案

実施期日 令和7年12月5日(金)5・6校時

実施クラス 1・2年生及び3年進路決定者

指導教室 与論高等学校 体育館

1 目的

- (1) 課題研究の発表の場を設けることで、生徒の表現力を育成する。
- (2) 生徒間で発表を見たことで感じたことや、地域サポーターからの質問や助言を今後の探究活動の進化に役立てる。

2 計画

前半	1年（10グループ）＋価値創造ゼミ（5グループ） ・2会場でオーラルプレゼン，発表・質疑応答併せて10分 ※価値創造ゼミは1グループ5分（質疑応答はまとめて実施） ・PPTでスクリーン投射してプレゼン。サポーター，オーディエンスの順番で質疑応答する。
後半	2年（30グループ）＋サイエンスキャンプ（3グループ） ・ポスタープレゼン，発表・質疑応答あわせて15分 ・2班に分かれて，制限時間内にプレゼンする。各班2回発表。質疑応答は随時（要タイムキーパー）。

3 授業内容

時間	活動	備考
12:30	開会式	
12:45～ 13:45	1学年発表 体育館・小体育館 1グループ発表・質疑応答併せて10分	司会 体育館：猶木 小体育館：永吉
	移動	
14:00～ 15:00	2学年発表 体育館・小体育館 14:00～14:30 奇数番号グループ 14:30～15:00 偶数番号グループ	タイムキーパー 体育館：田中 小体育館：石山
	移動	
15:05～	閉会式・講評 サイエンスキャンプ5期生のお知らせ	

※ オンラインにて東京大学，鹿児島大学より聴講あり

児童生徒の発表資料

与論小学校
茶花小学校
那間小学校
与論中学校
与論高等学校

与論の文化を受けつぎ隊



与論小学校 4年生

世界文化遺産
世界自然遺産
ユネスコ無形文化遺産
重要無形民俗文化財
有形文化財

与論町の無形民俗文化財

十五夜踊り



芭蕉布製造技術



100年フード

プチムツチャー



いつから？
なぜ今でもあるの？
どんなもの？



調べること

芭蕉布

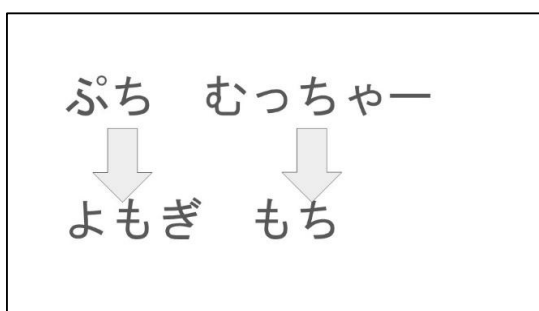
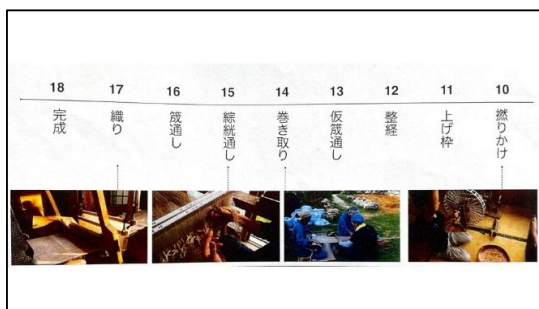


プチムツチャー



芭蕉の木 皮をはいだところ



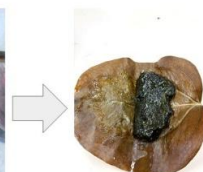


- ・ゆでたよもぎをミキサーにかける。
- ・よもぎに黒砂糖・ざらめ・じょうもちこを入れてこねる。



葉で包みむしきで15分むす

完成!!!!



みんなで食べました。



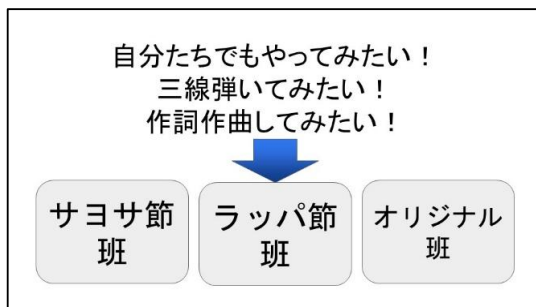
これからも受けついでいきたい

私たちにできること

- ・おばあちゃんといっしょに作る。
- ・よもぎを育てる。



与論の文化を受けつぎ隊



与論の音楽の楽しさ！
三線っておもしろい！
を伝えたい



サヨサ節とは…
与論の誠の心を歌ったもの！

例えば 誠打ちじゃしば
↓
誠を打ち出せば恥ずかしいことはない

サヨサ節 三線 メンバー：らら、ゆう、めいら、ようすけ

目標：三線でサヨサ節を弾けるようになる、オリジナル手踊りを作る

活動内容：サヨサ節をみんなで合わせて弾く。

～三線の魅力～

三線は柔らかい音色で心地の良い音がします。
初心者でも簡単に引くことができて楽譜も覚えやすいです。

振り返って…

みんなで演奏するのが楽しかった。最初難しと思ったけど実際弾くと簡単で一度でも良いので三線を触ってみてほしい。

サヨサ節歌詞

1 うちじゃしより じゃしより まくとう
うちじゃしより まくとう うちじゃしば
さよさ めはじかちゅんが

2 ゆんぬちゆるしまや いにくさやあしが
なびぬすくなかに さよさ ぐくぬたまる

3ならぬしどうなろうてい しぐりむぬいちゆる
いまならじうむてい さよさ ゆだんするな
4いちがちがうむてい まちかにていうたん
しゅうやまうちきてい さよさ あしびしやびら
～



ラッパ節とは...

明治末期、与論島から九州の炭鉱などへ出稼ぎに行った人々が、当時本土で流行していた「ラッパ節」を覚えて島に持ち帰ったのが始まりとされています。

「与論ラッパ節」➡ 与論小唄 ➡ 19の春

「与論小唄」は、与論島を経由して沖縄本島に伝わり、コザ市などで歌詞が変わり、最終的には、「19の春」として定着しました。

ラッパ節班

活動内容

- ・ 大太鼓が締太鼓にわかれしました。
- ・ 小高あすかさんと有馬ひとみさんと、三線を弾いてもらいながら踊りました
- ・ 手の動きを頑張りました。
- ・ 振り付けを覚えた。
- ・ みんなで仲良くを目標に！



与論ラッパ節



うた

1歌ぬちゅらさやラッパ節 ひとつ唄いましょ
ねあなた はては世界の果までも よろんラッ
パと唄いましょう 唄いましょ

2咲いた花には 惚れるなよ 花はきれいが
散りやすい 恋をするならあの松よ 枯れて落
ちるも二人づれ 二人づれ

p 2

3花を咲かすも雨と風 花を散らすも雨と風
雨と風とが無いなれば 花を咲かねば散りもせ
ぬ 散りもせぬ

4泣いて暮らすも五十年 笑って暮らすも五十
年 泣いて暮らすも笑うのも 心一つの持ちよ
うです 持ちようです

オリジナル班

目標：与論の魅力、私達の思いを詰め込んだ曲を作る！

小高あすかさんに手伝ってもらいながら、曲を創りました！

活動内容、完成までの順序：

- 一、歌詞に入りたい言葉を出す
- 二、言葉を絞る
- 三、言葉をつなげて歌詞を作る
- 四、曲をつける
- 五、三線に合わせて曲を調整

完成!!



まとめ

スライド作り、歌詞の言葉絞り、
題名を決めるときの話し合い

など、大変なことがたくさんありました・・・

でも！

曲作りという難しいことに
チャレンジしたから知ることが
できた楽しさがたくさんあります！

出来上がった曲 「ふるさとの島」

ふるさとの島



1 番

エメラルドグリーンの透き通る海

生き生きと生い茂る美しい草花

それが私達の故郷

永遠にきらめく珊瑚の島

私達の誇り

私達の誇り 与論島

2 番

優しく見守る満天の星空

旅人を迎えるしまんちゅの瞳は

太陽のように温かい

永遠に輝く奇跡の島

私達の宝

私達の宝 与論島

私達の誇り、私達の宝、、、与論島、

まとめ

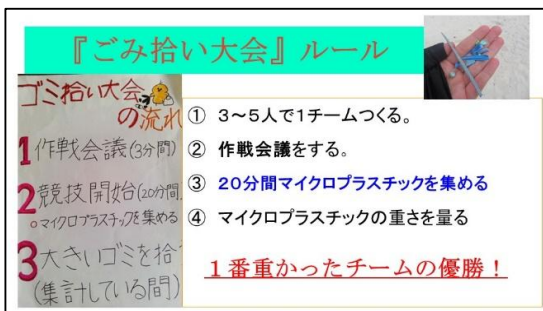
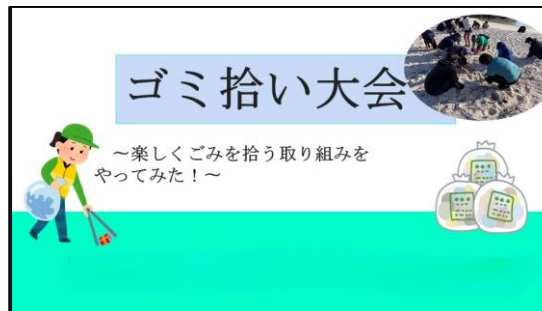
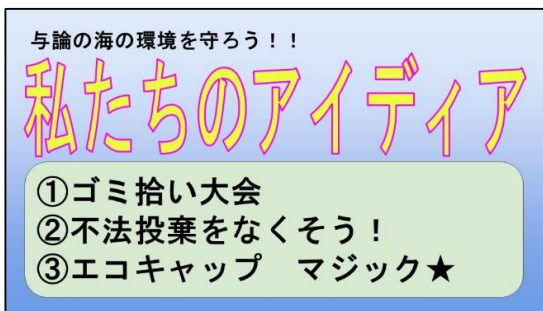
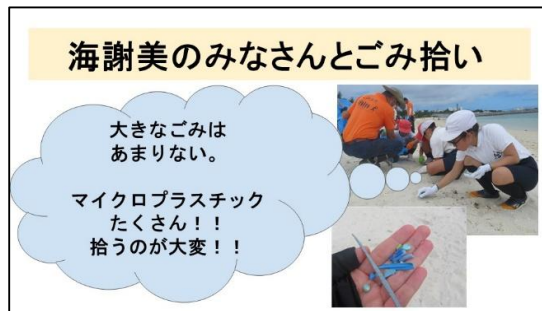
- ・与論の音楽は楽しい！
- ・三線ってそんなに難しくない！
- ・歴史があるので、自分たちもつないでいきたい！
- ・三線に触れることができる機会を作る！



皆さんも与論の音楽を楽しみましょう！

ミッシーク トートウガナシ





「与論の海を守る」アイデア

不法投棄をなくして 海を守ろう！！



役場の方にインタビュー

環境課の嶺元さんに電話でインタビュー

質問したこと

- ・環境汚染の現状
- ・不法投棄されたゴミのゆくえ
- ・不法投棄されたゴミの種類

など



①不法投棄があったら
環境課へ連絡がいく
↓
リサイクルセンターに持っていく

②どんな種類が多いか
1番は袋に入った**空き缶**

③役場の取り組み
毎月、町内を見回る
↓
もし不法投棄を見つけたら、
週報に場所と捨てられた物を
のせて情報を集める



不法投棄をなくすために！！

手作りの看板を
作って
呼びかけよう！！



エコキャップ ★マジック★



登下校でゴミを拾おう作戦！

1人が1日で拾ったゴミの量

ゴミの重さは
900g！！
続けるのは大変...



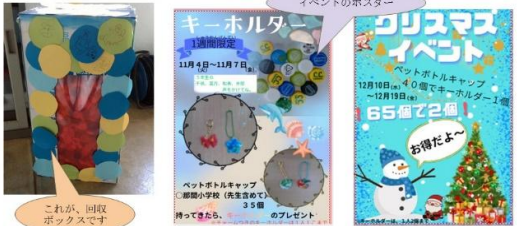
アップサイクル作戦！

イベントのポスター

キーホルダー
1週間限定
11月4日～11月7日
ペットボトルキャップ
（郡小小学校 先生含めて
35個）
のプレゼント

クリスマス
イベント
ペットボトルキャップ
12月18日、40個でキーホルダー1個
～12月19日
65個で2個！
お待たよー

これが、回収
ボックスです



エコキャップ★マジック



海ゴミ（マイクロプラスチック）を使って



成果と課題

<成果>

- ・ペットボトルキャップ回収の意識が高まった。
- ・海ゴミを生かすことができた。

<課題>

ペットボトルキャップを集めるだけではゴミを減らすことにつながっていないのではないか・・・。



テーマ

「高齢者の健康寿命を延ばすには？」

与論中学校 2 年

研究テーマの設定理由

与論の人たちの健康寿命が短いと残りの人生を楽しく過ごせない

健康に長生きできる秘訣を知り、島民に健康に過ごしてほしい。

調査方法

(1) インターネットで調べる

(2) 資料を使って調べる

(3) インタビューをする

健康寿命とは？

心身ともに自立し、健康上の問題で日常生活が制限されことなく生活できる期間のこと。

であり、

寿命 $\neq$ 健康寿命

厚生労働省第 4 回 健康日本推進専門委員会の資料より

男性

令和 4 年

平均寿命 81.05 健康寿命 72.57 8.49 年

女性

令和 4 年

平均寿命 87.09 健康寿命 75.45 11.63 年

男女の平均で寿命と健康寿命には 10 年の差

健康長寿の要因

長野県

- ・ 就業率が高い
- ・ ボランティア参加率が高い
- ・ 習慣的喫煙者の割合が低い
- ・ 保健師数が多い

など

健康長寿要因

滋賀県

- ・ タバコを吸う人が少ない
- ・ 多量飲酒をする人が少ない
- ・ スポーツをする人が多い

など

一方与論島は？

奄美新聞の記事より
(2023年9月15日時点)

百寿率 人口10万人に占める100歳以上の人の割合

市町村	総人口 (人)	100歳以上者 (人)	百寿率 (人/10万人)
与論町	40,501	5	12.3
鹿児島県	1,353	0	0
全国 (2025年9月時点)	1,583	0	0

約4.7倍

健康長寿要因 (厚生労働科学研究成果データベースより)

- ① 島独自の食文化
- ② 生涯現役の生活習慣 (農業)
- ③ 温暖な気候
- ④ 社会的つながりと生きがい
- ⑤ 遺伝

与論は長寿の島と言えるのか？

がん 11

心臓病 6

自殺 6

脳卒中 3

事故 2

肝臓病 2

その他 5

長寿と早世の同居する島

2016年に与論で行った調査から（20～64歳の589名）
参考文献：日本アルコール関連問題学会雑誌 第24巻第2号2023年度

男性の76.1%，女性の53.1%が1ヶ月以内に飲酒と回答

男性の30.7%，女性の14.8%が生活習慣病のリスクを高める飲酒量（全国平均男性17.9%，女性10.5%）

全国平均の約1.5倍！

・適正飲酒量以上の飲酒割合が高い

2016年に与論で行った調査から（20～64歳の589名）
鹿児島県民平均との比較

	男性	女性
高血圧	1.33倍	1.20倍
メタボリックシンドローム	1.21倍	1.21倍

毎日の生活習慣も大きく影響している

健康な方の特徴

調査報告 健康な方の特徴

1 よく喋る



2 自分で歩ける



3 食べる



フィドゥールを利用している方々に聞いてみました!!

心がけている生活習慣

- 1 早寝早起き
- 2 日中の活動に参加
- 3 規則正しく生活をする

健康に生きていくためには？

いっぱい喋る！

生きがいを大切にする！

考察

- ・与論は人との交流は多い。
- ・飲酒量が多い傾向にある。

健康寿命を延ばすために

- ・多くの人との交流・会話
- ・生活習慣を整える（節酒・禁煙）

具体的な実践

- ・中高生で訪問介護ボランティアに参加
- ・小学生から高齢者まで一緒にできる集落行事を考える。
- ・町内放送を使って休肝日を呼びかける（役場とタッグを組む）

※火曜日を休肝日として町内放送をする。
火曜日が飲み会の人水曜日を休肝日とする。

今後の課題

健康に過ごす、元気に長く生きていく

与論町として、中学生としてできること

ご清聴ありがとうございました

与論中学校 2 年

令和7年度
 東京大学大気研究所
 ×
 与論高校×古仁屋高校×大島高校
 夏季集中サイエンスキャンプ
 与論高校2年

目次

1. サイエンスキャンプとは
2. 事前準備
3. グループ紹介
4. 東京での日程
5. 成果発表の場について
6. サイエンスキャンプを通して

1. サイエンスキャンプとは

1. サイエンスキャンプとは

身近な水を科学する

最先端の
科学技術の体験

与論島で
成果発表をする

2. 事前準備

2. 事前準備

・採水の手順

1. バケツで水をくむ
2. 水温・塩分を測る
3. pH・BODを測る
4. ボトルに採水をする

3. グループ紹介

3. グループ紹介

～焼酎粕と海藻の堆肥化による赤土流出と防止対策～

与論島の問題

焼酎粕が大量に出る

海藻で海の景色が悪くなる

畑の土が海に流れる

焼酎粕と海藻を使う！！

サラサラ土 → つぶつぶな土

解決したいこと

堆肥として使う
→ 土の構造が変わり、土が流れない

3. グループ紹介

～不純物の入った貯水タンクの水や赤崎鍾乳洞の水で植物は育つか～

与論島には川がない
→ 水が貴重

貯水タンク・赤崎鍾乳洞の水に注目！！

<研究したこと>

これらの水で植物は育てることはできるか？

3. グループ紹介

～災害のときに水を用意する方法と家で水をやさしくきれいにする方法について～

問題点

- ① 災害のときに家で使う水が足りない
- ② 与論の水道水はかたくて使いにくい

① 家で使う水を海水で作りたい！

② 水道水を使いやすい水にしたい！

4.東京での日程



Diagram showing the chemical structures of hydrogen peroxide (H_2O_2) and water (H_2O).

4.東京での日程

• 1日目



Two photographs: the top one shows students in lab coats working in a laboratory; the bottom one shows a group of students posing for a photo in front of a building.

4.東京での日程

• 2日目



Three photographs showing students in lab coats working in a laboratory setting.

4.東京での日程

• 3日目



Three photographs: the left one shows students in lab coats working in a laboratory; the middle one shows a group of students posing in front of a building; the right one shows a building.

機械の説明

ICP-AES

XRF



Two photographs showing laboratory equipment: ICP-AES (Inductively Coupled Plasma Atomic Emission Spectroscopy) and XRF (X-ray Fluorescence).

5.研究発表の場について



An illustration of a scientist in a lab coat holding a flask.

文化祭

スライド発表

展示



Two photographs: the left one shows students presenting slides; the right one shows students displaying posters.

校内発表



A photograph showing students presenting posters in a hallway.

奄美シンポジウム



Three photographs showing students at a symposium, looking at posters and talking.

6.サイエンスキャンプを通して




An illustration of a scientist using a microscope and three circular icons with scientific symbols.

6.サイエンスキャンプを通して

・思考力

分析や実験の結果から、筋道を立てながら考えることが大切と分かった。

・協調性

大変なことも仲間と協力し合いながら発表を成功させることができた。

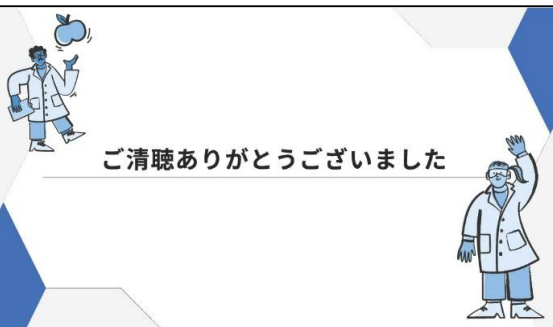
・貴重な体験

大きな成長とたくさんの学びがあり、達成感を感じられた。参加して良かったと心から思えた。



謝辞

東京大学大気海洋研究所の皆様
日本エアコンピューター株式会社様
有村商事株式会社様
与論町役場の皆様
与論町 水道課の皆様
与論町海洋教育推進協議会の皆様
NPO法人会海の再生ネットワーク与論 池田様
赤崎鍾乳洞
鹿児島県立大島高等学校の皆様
鹿児島県立古仁屋高等学校の皆様
与論小学校
那間小学校
茶花小学校



4～6月：与論島の課題を解決するアイデア出し

7月：アイデアで解決された世界を表すストーリー作り

8月：短編動画制作
アンケート制作

9月：動画視聴
→アンケート実施



今後の展望

ポスター作製

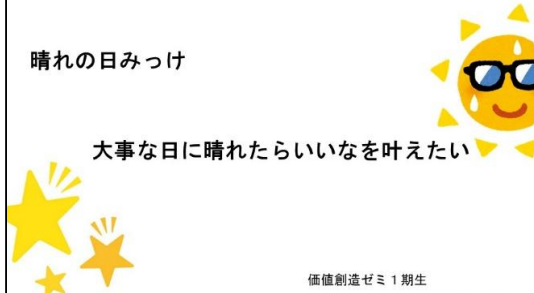


駐車場の観察

価値創造ゼミ 1期生

晴れの日みつけ

大事な日に晴れたらいいなを叶えたい



価値創造ゼミ 1期生

満天の星空をみよう

晴れの確率が高い日に観光客に来てもらう



満天の星空

晴れの日にアクティビティ楽しんでもらいたい



満天の星空を見るための情報

晴れの確率が高い日（特例日）

+

雲量が少ない日

||

観光に最適な日



学んだこと

他の視点から物事をとらえることの大切さ



研究の目的

スマホに依存し、勉強に集中できない

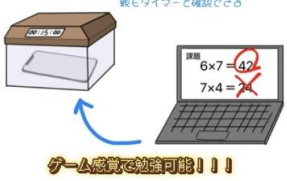


勉強環境の改善

価値創造ゼミ 1期生

勉強環境を改善する道具「タスク式タイマーボックス」

正解率や進捗率に応じてタイマー減少
親もタイマーを確認できる



ゲーム感覚で勉強可能!!!

- ①ボックスに勉強を邪魔するものをいれる
- ②タイマーをセットする
- ③宿題の正解率や進捗具合によって、タイマーの時間減少

アンケートをもとに
タスク式タイマーボックスの

改善を行う

はずが...

Q.なぜ勉強しないのか

→勉強への危機感が無い!!!



(1) 研究目的

与論の酒飲みで困っている人を
少しでも減らす

価値創造ゼミ 1期生

【酔っ払いリング】

迎える人がスマホから通知するとリングから音が鳴る
→音の解除は迎える人の指紋で解除できる



【アルコールウォッチ】

お酒を飲んだ量がわかる
→そのデータは家族で共有できる



価値創造ゼミ1期生：青山 珠己・竹本 志

(2) 現段階の結果

アンケート調査を実施

↓

回答者の約6割が共感

↓

回答の中から機能として追加・改善点が明確化

(3) 今後の展望

- ・機能面を重点的に改善
- ・パンフレットを作成
- ・第2回のアンケート調査を実施



勉強するとき

周

り

気にならない？

価値創造ゼミ1期生：

勉強はかどるウォッチ

- ・温度、湿度、時間、音の大きさが分かる時計

→勉強が進むかどうかわかりやすいように5段階の色で光る

- ・スマホのアプリと連動し、毎日の勉強時間の量の変化が見れるようにする

進まない

↑

進むぜ



今後の展望

- ・勉強がめっちゃ進むぜ☆マップを作ってみる。
- ・勉強はかどるウォッチが欲しいかどうかアンケートを取る。



与論高等学校
価値創造ゼミ
一期生

鹿児島大学 南九州・南西諸島域イノベーションセンター
センター長 特任教授 藤枝 繁 様
研究・産学地域連携ユニット 准教授 中 武 貞 文 様
研究・産学地域連携ユニット 特任専門員 石 塚 賢太郎 様

ノード株式会社 森 康 之 様
株式会社与論電子 玄 保 成 様
与論町海洋教育推進協議会のみなさま
与論町役場のみなさま
与論町海洋教育推進協議会 会長 池田 剛 様
与論イノベーションちゅ実行委員会 委員長 沖 道成 様
Aコープよろん店 本部長 林 様 支店長 林 様
全日本暗れ男暗れ女協会 榎本 昂輔 様
与論町立茶花小学校・与論小学校・那間小学校・与論中学校・鹿児島県立与論高等学校の生徒・保護者のみなさま

食べられる草・花

与論高校1年

目次

1. 研究背景
2. 研究方法
3. 活動を通して
4. 感想・今後の展望



1. 研究背景

与論の魅力を島民に知ってもらいたい！！

↓
与論島だけでできることはないか

↓
与論の草花を使うのはいくらか

2. 研究方法

- ① 町立図書館に行き、草や花の調理法が載った本を借りる
- ② ①を参考に献立を考える
- ③ 献立に使う草や花が生えているか確認する
- ④ 必要な草と花を採取する
- ⑤ 実際に調理し食べる
- ⑥ ヨロンfunの記事にまとめる



3. 活動を通して

草花の採取場所



～那間校区～



①ハイビスカス



②シロアワユキセンダングサ



～与論校区～



①リュウゼツサイ



②ツルムラサキ



③ヨモギ



④スナヅル



⑤長命草



⑥ウシクガジュマル



実際に調べた草を食べてみた！



食べてみた感想

・クワ
キュウリに近い味がしたが、においはなかった。



・リュウゼツサイ
ほとんど苦みはなかった



・シロアワユキセンダングサ
苦みが強く感じられた



・ツルムラサキ 味はほとんどなく粘り気があったが食べやすかった 	・長命草 味はほとんどなく少し苦みがあったが食べやすい 
・ヨモギ 苦みがあり、ヨモギの香りがした 	・スナヅル 味はなく、繊維の歯ごたえがあり噛み続けるとネバネバしてきた 

調理した結果

スナヅル
～ 長命草香る砂藁ミシジマイ ～




【材料】
米3合・人参・鶏肉・しいたけ・ネギ・醤油・みりん・酒・塩・スナヅル・長命草（ボタンボウフウ）

～食べた感想～

- ・草の青臭さなどなくおいしく食べられた
- ・スナヅルをもっと細かく刻んだ方がよかった
- ・見た目に野草を混ぜ込んだ感じがなくて個性感があまりない



ククル
～ 心に沁みるヨモギチミリ汁 ～




【材料】
人参、卵、豆腐、小麦粉、タピオカ粉、本だし、ヨモギ

～食べた感想～

- ・体に優しい味だった
- ・チミリだけでなく、汁もほんのりヨモギの味がだしとして効いていた
- ・ヨモギ以外の野草を混ぜ込んでみるといいのではないか



ツルムラサキ
～ 蔓紫のひんやり春雨サラダ ～




【材料】
春雨・プチトマト・ピーナッツ・みりん・醤油・砂糖・中華あじ・ツルムラサキ

～食べた感想～

- ・ツルムラサキがネバネバしていた
- ・ほうれん草に似たような味がした
- ・スッキリしていて食べやすかった



～ ユンヌの草のパリパリ天ぷら ～




【材料】
てんぷら粉・油・リュウゼツサイ・クワ・シロアワユキセンダン草・ウシクガジュマル

～食べた感想～

- ・リュウゼツサイが抹茶のような味がした
- ・ウシクガジュマルの茎の部分が酸っぱかった
- ・ほとんど草自体の味はなく、スナック菓子のよう



クジムチ
～ハイビスカスのちゅらさい葛餅～



【材料】
葛粉、三温糖、ハイビスカス



失敗例

水分が多い・だまの残り



固まらない...

レモンの入れ忘れ



黒くなる...

～食べた感想～

- ・ハイビスカスの青臭い味を感じた
- ・ヨモギ餅と少し似たような感じだった
- ・甘さをもう少し抑えられるといいかなと思う



参考文献

町立図書館

- ・与論町(2012年)『与論町 薬草のふるさととお料理』与論町
⇒炊き込みご飯、オオバコの春雨サラダ、天ぷら、
サンキヤーのチミリ汁、植物の情報
- ・嵩西洋子(2018年)『南の島のハーブ南山舎』
⇒ハイビスカスの葛餅、植物の情報

4. 感想・今後の展望



探究活動で感じたこと

- ・普段は気にならない道端や庭に生えた草でも食べられるものと分かった
- ・与論島の魅力が増した気がした

ヨロンfunの記事で料理を発信！！
与論の魅力を伝える

記事の内容

- ・ミシジマイがどういうものか
- ・探究エピソード など



謝辞

試食にご協力いただいた先生方
草の採取にご協力いただいた方々



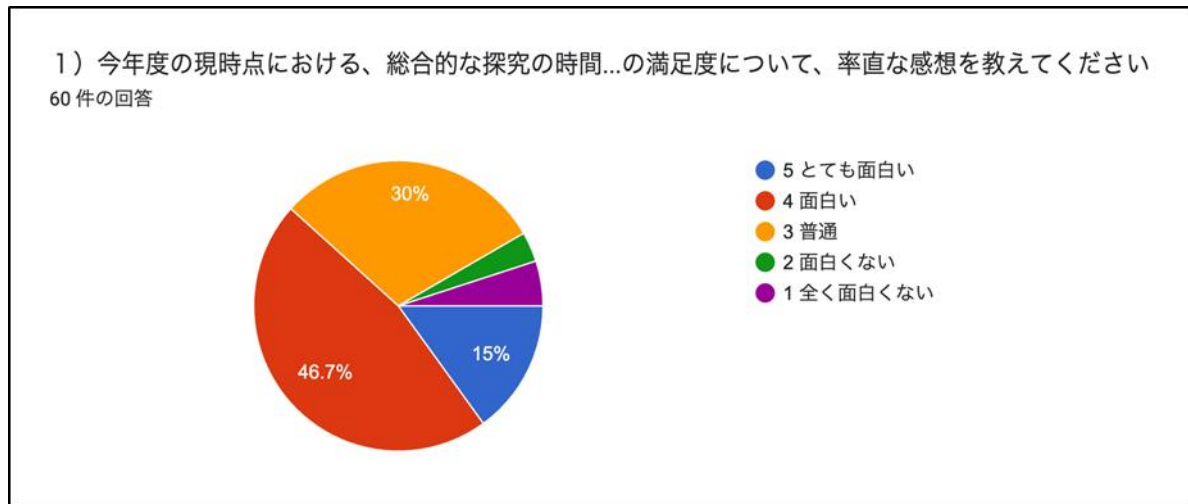
ご清聴ありがとうございました



その他添付資料

【添付資料 1】

R7 年度_与論高等学校ゆんぬ学・生徒（1・2 年生）アンケート

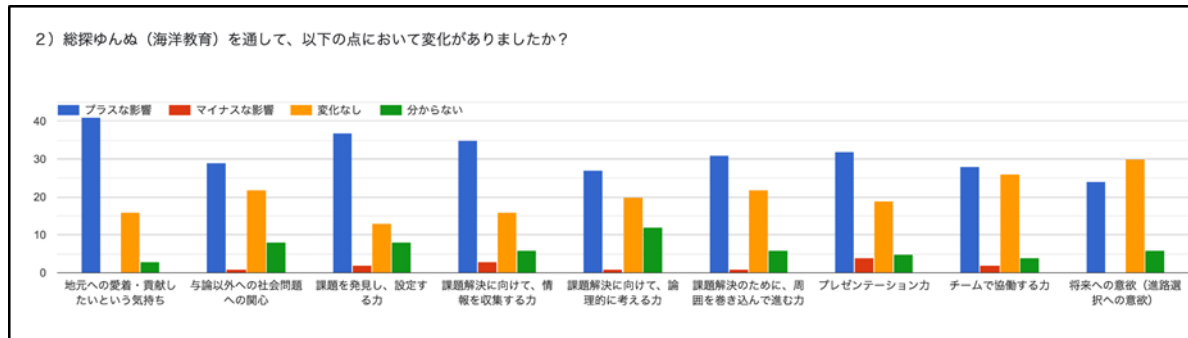


その理由や背景、特に面白いと感じている点・面白くないと感じている点を具体的に教えてください。

- ・自分が感じた疑問点や思いついたアイデアを自分のペースでとことん突き詰められる点
- ・それぞれが与論島をより良い島にするために色々なアイディアを用いて試行錯誤しているのがすごいと感じました。
- ・与論の気になるジャンルを調べてまとめることが楽しい。
- ・発表する機会が多かったから、自分の探求してきた成果を共有できてとても有意義だったため。
- ・新しい発見や達成感を感じれるから
- ・小学生から高校生までが混ざったグループワークだったので、それぞれの立場からの感想・意見を共有することができたので面白かった。
- ・自分が疑問に思ったことを探求できるから。
- ・自分のテーマをしっかりと詰めれるから
- ・与論の電力だけでなく、世界的な発電に対する問題点などが出てきて調べるのが楽しかった。
- ・成果を感じない
- ・何をしたらいいかわからない時がある。
- ・興味がないから
- ・グループがいい
- ・調べて行く中で既存のサービスや取り組みがさまざまなことを考慮して実行されていることを知れる点。
- ・自分の知らなかったことについて知れることが楽しいと感じた。
- ・面白くもなく面白くないでもないから。
- ・なかなか自分がしたいってのがない。自分がこれしたいとかあったら面白いと感じたかもしれない。
- ・多くの時間を費やしてきて、満足できるような内容になったから。

- ・もしかしたら今の与論が抱える問題を解決する手助けになるかもしれないと思うとワクワクするから。
- ・自分の好きなことを調べているから
- ・普通の総探ではできないような実習や体験ができて面白かった。
- ・企画実行が難しい
- ・体育座りをずっとしているのがきつい。発表を聞くのは楽しかった。
- ・楽しいけど、仲間が欲しい
- ・自分の興味のある分野に関して研究できるから
- ・自分の好きなテーマについて自分のペースで探求できるのでいいと思います。
- ・質問をするのが面白かった
- ・色々なアイデアで研究をしていた点
- ・様々な視点から与論の問題について詳しく知ることができるから。
- ・自分がわからなかったことを知ることができるところ
- ・解決法を考えるのが難しいから
- ・自分で考えて活動できる
- ・与論の知らなかった部分や改善すべき点がわかるところ
- ・与論のためにやるのか入試の推薦、総合型のためにやるのかよくわからない
- ・知らなかった知識を知ることができるから
- ・自分が知りたいことを知れる
- ・やらないといけないからやってる感じ
- ・自分が取り組んでいる内容についてたくさん調べることによってその知識がついてきて、調べている関係の人とかかわることができる点。
- ・与論のことについて知れるから
- ・ヨロンの課題を見つけて解決策を考えるのが楽しい。
- ・あまり必要性を感じない
- ・自分のやりたい分野じゃなかった
- ・難しいことをしているから
- ・自分の本当に研究したい課題を見つけたとき。
- ・他の高校の人や小学生中学生と交流できるのがいいなと思った
- ・難しいが深めることができている
- ・自分にはない考え方や知らないことを知れるから
- ・自分が気になったことについて調べることができる点が面白いが、気になるところが見つからず苦勞することがある。
- ・自分の調べたいことを調べることができているから
- ・アントレプレナーシップに参加しているため、友達と意見交換したり、企業の方のお話を聞いたりできるのが面白い
- ・自分の興味のあるテーマを調べるといっても大変なこともあるため、普通だと感じる
- ・与論の魅力を見つけるために良い時間だから。
- ・全て
- ・アンケートに協力してくれる方が少なく、思うように活動できなかったから
- ・いろいろな課題とその解決案を聞けてたのしかった。しかしグループで話し合う時間が長すぎてすこし気まずかった。

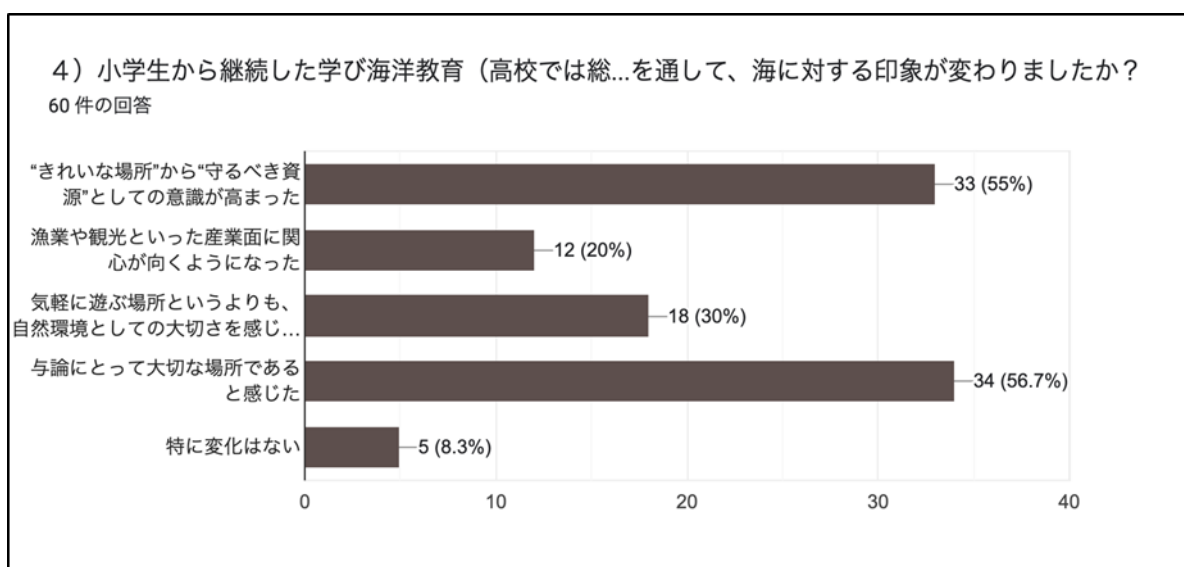
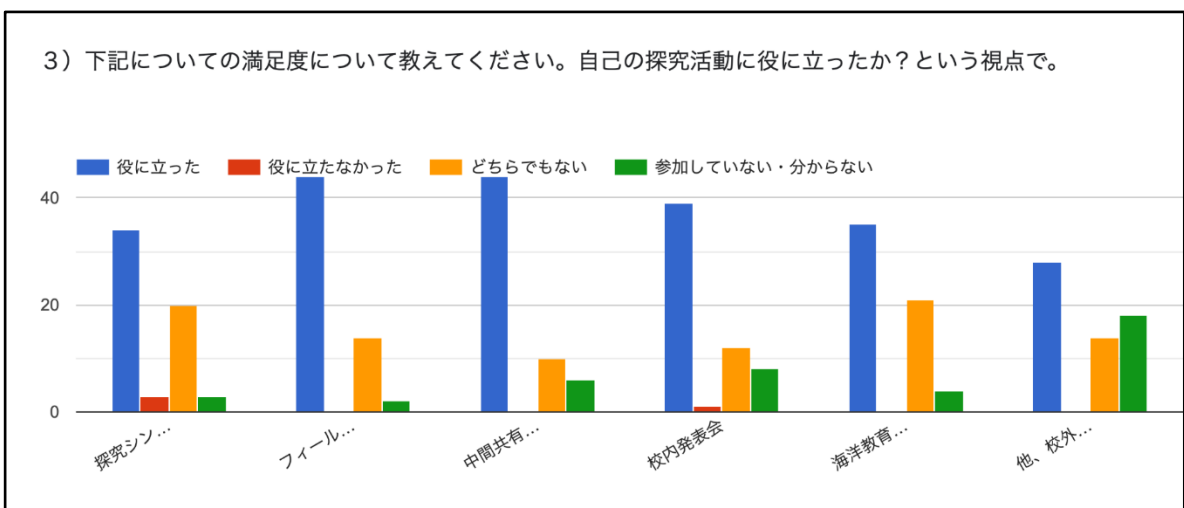
- ・海洋教育フェアでの小中高のグループ活動の導入など、新たな取り組みが増えていて、新鮮で楽しい。
- ・与論に限定した範囲の研究ではなく、もう少し自分が興味があることを広く研究してみたい



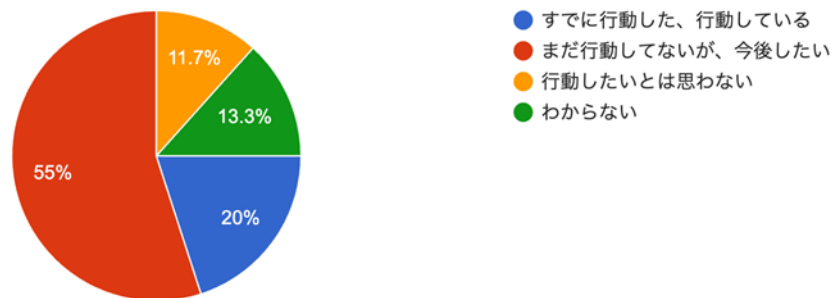
他、自分への影響・効果を感じた点があれば教えてください。（サイエンスキャンプや価値創造ゼミに参加した生徒は、活動の中で得た学び・気づきについて、できるかぎり具体的に教えてください）

- ・自分が調べていることについてより多くの人からの意見を聞きそれをわかりやすくまとめることが大切なのだとわかった。
- ・発表のとき、多く寄せられる質問に即座に対応する能力がついたと思う。
- ・与論の現状の課題についての知識を得られる
- ・人前で発表することに慣れました
- ・価値創造ゼミの活動を通して、多くの人を巻き込みながら行動することや失敗から学ぶことができた。
- ・身近な部分に目を向けて考える
- ・遊びに行った時などにハマガメをついつい探してしまう
- ・個人で活動する力が増えたと思う。
- ・調べてみると沢山の知識を得られた。これからも活用することができる気がする。
- ・グラフにまとめる力、自分の考えを言語化する力、行動力です。
- ・参加前よりも、「なぜ」を追求したり、考えられるようになった。
- ・伝わりやすさを意識して発表原稿を書いたり、スライドを作成したりできるようになった。
- ・今まで見たことない視点から問題を考えたり、教授の方から実際に話を聞けていい経験になった。プレゼン力が格段に上がった。
- ・自分の計画力が上がる。
- ・海洋教育フェアを通して、地域の人たちや子どもたちが与論を良くしようとする努力を知って、自分も頑張ろうと思った
- ・自分で考えたものを形にする中で、もっとこうしたほうがいいよというアドバイスを自分の中に落とし込む事の大切さに気づいた。
- ・調べていくうちに与論についてわからないことだらけだなと感じさせられた。もっと知りたいと思った。
- ・実際に聞くこと大事と感じた
- ・活動的になった

- ・ネットだけでは集められない情報が大量にあることを知った
- ・与論以外での出来事にも興味を持つようになった。
- ・しっかりと物事を考える力が成長したとを感じる。
- ・行動を起こそうと思える刺激になった。
- ・ボランティアなどによく参加しているため多くを知れる
- ・水の味などの個人的な感覚を、誰にでもわかるように表すことが難しかった。具体的なデータを示すことで説得力が増すことや、注目してほしいところだけ囲ったり、色を付けたりすることで視線がいきやすくなる（壁新聞・スライド）などの学びを得た。
- ・与論の自然について知るきっかけになった
- ・与論のことについてもっと深く知ることができたと思う。
- ・実際に周りの人の協力を得て行動を起こすことの大切さを改めて感じさせられた。
- ・与論が現在直面している課題について、積極的に調べて知ること、自分ごととして考えることができた。その影響で、自分が調べている分野以外の問題にも興味を持つようになった
- ・メールの書き方、正しい日本語など、基本的マナー



5) 小学生から継続した学び海洋教育（高校では...、海に関して何か行動をしようと思いましたか？
60 件の回答



どのような行動をしようと思いますか？すでに行動したことがあればその活動について教えてください。（例：ビーチクリーンや清掃活動への参加、省プラスチックやゴミ削減を心がける、地域の海に関するイベント参加、友達や家族と海について話す）

- ・清掃活動への参加
- ・清掃活動
- ・ビーチクリーンや広い箱の改修ボランティアへの参加など
- ・海に関するボランティアなどに積極的に参加する。
- ・海に遊びに行ったときにゴミ拾いをしたり拾い箱改修プロジェクトに参加したりした。
- ・ビーチクリーンや清掃活動への参加。
- ・ごみがあったら拾おうと思う
- ・ビーチクリーン
- ・海岸清掃
- ・海岸清掃のボランティア
- ・清掃活動、広い箱の清掃、色塗りなど
- ・拾い箱
- ・海に遊びに行った時にゴミ拾いをした。
- ・海謝美に参加した
- ・地区のクリーニング作戦に参加した
- ・一応ゴミ袋を所持している
- ・海謝美に参加した
- ・清掃活動に積極的に参加したい
- ・地域活動に参加する
- ・海ゴミの掃除
- ・ごみ拾いのボランティアに参加しようと思っている
- ・ボランティア活動
- ・うんじゃみへの参加
- ・海で遊ぶ時に軽くゴミを拾ったりする
- ・海によく祖母が行くので、話を聞いてみる。
- ・落ちていたごみを拾う
- ・与論マラソンのボランティア

- ・海謝美の参加
- ・ボランティアへの参加
- ・海へ遊びに行ったときについでにゴミを拾う
- ・清掃活動への参加、家族で話す
- ・積極的に広い箱を使用すること
- ・遊んだ後にゴミ拾いをする
- ・海謝美の活動への積極的な参加